LEDバックライト方式 23型 フルHD液晶ディスプレイ

VGP-D23HD1
取扱説明書

⚠警告
安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5 ～ 9 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐに VAIO カスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **ディスプレイを落としたり、キャビネットを破損したとき**

❶ 電源を切る。

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く。

❸ VAIO カスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理を依頼する。

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

風呂・シャワー室での使用禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

アース線を接続せよ

目次

はじめに
接続と設定
コンピュータ
テレビ・ビデオ
メニュー
その他

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- VESA と DDC は、Video Electronics Standard Association の商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Photoshop は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では ™、® マークは明記していません。

アース線の接地接続について

接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

高周波電流規制について

この装置は、JIS C 61000-3-2 適合品です。

本書で使われているイラストについて

本書で使われているイラストは実際のものと異なる場合があります。

- 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の傷害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- 万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
- 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- 本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- 本機に付属していないソフトウェアを使用した際の動作は、保証しておりません。

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
万一電源コードが傷んだ場合は、VAIO カスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

落雷のおそれがあるときは本機を使用しない

落雷により、感電したり本機が故障することがあります。雷が予測されるときは、火災や感電、製品の故障を防ぐために電源プラグを抜いてください。
また、雷が鳴り出したら、本機には触らないでください。

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は VAIO カスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。

本機の上に、花瓶などの水の入ったものを置かない

内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、VAIO カスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。

付属の電源コードを使用する

それ以外の電源コードを使用すると、火災や感電の原因となります。

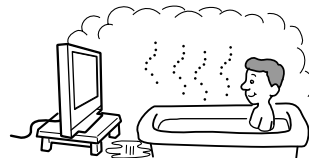
アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。
アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

本機は国内専用です

交流 100V でお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。

水のある場所に置かない

水が入ったり、濡れたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。
雨天や降雪中の窓際でのご使用には特にご注意ください。

目や口に液晶を入れない

液晶パネルが破損すると、破損した部分から液晶（液状）が漏れることがあります。この液晶に素手でふれたり、口に入れたりしないでください。中毒やかぶれの原因になることがあります。誤って、目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

次のページへつづく

⚠警告　**下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。**

禁止

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

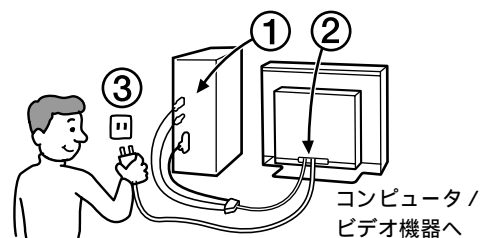
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

⚠注意　**下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。**

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となることがあります。通風を確保するために、製品の周囲にはものを置かないでください。
- あお向けにしない。
- 布や布団を上に置かない。

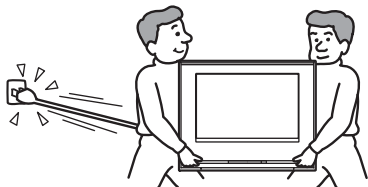
電源プラグをつなぐのは、コンピュータ機器との接続が終わってから

電源プラグをコンセントに差し込んだまま接続すると、感電の原因となることがあります。
コンピュータ機器との接続が終わったあと、ディスプレイの電源コードをディスプレイ本体につないでから、壁のコンセントに差してください。（下図の ①②③ の順）

電源コードを抜くときは壁側コンセントから抜く

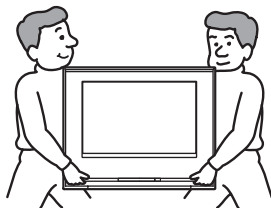
壁側コンセントからではなく、ディスプレイ側から先に抜くと感電することがあります。抜くときは上図の ③②① の順です。抜くときは必ずコードでなくプラグを持って抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

移動させるときは、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。

注意

運搬時は慎重に

本機を運ぶときは、本機につないでいるケーブルなどをすべてはずし、必ず2人以上で図のように、画面の下部を両手でしっかりと持ってください。落としたりするとけがや故障の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグにさわらない

濡れた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、電源プラグを抜く

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない

火災や感電の原因となることがあります。

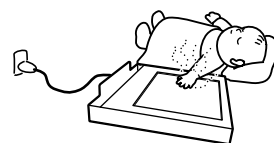
禁止

安定した場所に設置する

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。

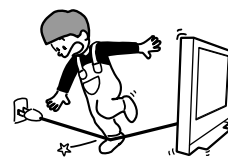
禁止

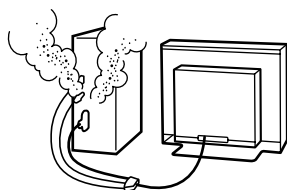
通電中の製品に長時間触れない

温度が相当上がることがあります。
長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

禁止

人が通行するような場所に置かない／コード類は正しく配置する

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするような恐れのある場所を避け、十分注意して接続・配置してください。

次のページへつづく

コネクタはきちんと接続する

- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアース線を接続してください。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

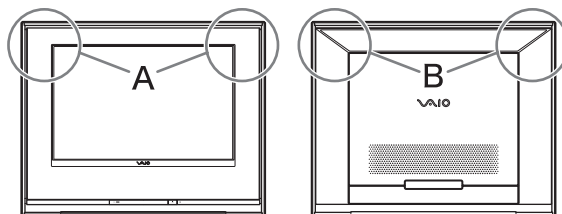
- ボタン型リチウム電池は幼児の手の届かないところに置く。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- ⊕と⊖の向きを正しく入れる。
- 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本機の表面が熱くなることがあります

イラストのA・B部分は、本機の排熱に使用しているため、熱くなることがありますが、故障ではありません。また、本機の使用状況により排熱量は異なります。

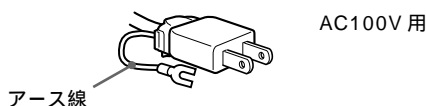
使用上のご注意

輝点・滅点について

画面上に常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。液晶パネルは非常に精密な技術で作られており、99.99％以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。
また、見る角度によってすじ状の色ムラや明るさのムラが見える場合があります。
これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。
これらの点をご了承の上、本機をお使いください。

電源について

付属の電源コードをお使いください。
安全のため、電源コードにはアース線がついています。電源コンセントにプラグを差し込む前に、必ずアース線をアースへつないでください。電源コードを抜くときは、先にプラグを抜いてからアース線をはずしてください。

プラグ形状例

使用・設置場所について

次のような場所での使用・設置はおやめください。

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内はとくに高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど、温度の高い場所
  変形したり、故障したりすることがあります。
- 振動の多い場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。
- 不安定な場所

液晶画面について

- 液晶画面を太陽に向けたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。窓際や室外に置くときなどはご注意ください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上にものを置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い所でご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がるともとに戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともにもとに戻ります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

お手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れを拭き取るときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

搬送するときは

修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使ってください。

本機の主な特長

フル HD に対応した 23 型 WUXGA 液晶

高解像度 1920 × 1200 ドットの WUXGA（Wide Ultra eXtended Graphics Array）液晶パネルを採用しています。広いデスクトップでコンピュータの快適な作業環境を提供するとともに、デジタルハイビジョン放送（1920 × 1080）の高精細な映像を余すところなく表示できます。
液晶パネル表面には高コントラストフィルターと低反射クリア偏光板を採用した「クリアブラック液晶」を搭載。高コントラストフィルターはバックライトの光の拡散を抑え、明るい光を液晶部に伝えることができます。低反射クリア偏光板は AR（anti-reflective）コーティングを施し、外部から画面への写り込みを低減します。これにより、高コントラストと低反射を実現。黒や原色が引き締まり、生き生きとした鮮明な映像を映し出すことができます。

広色域の色再現を可能にする LED バックライトシステム

液晶パネルの光源として、光の三原色である独立した RGB（赤・緑・青）の LED を用いることにより、NTSC 比ほぼ 100% の色空間を表現可能。
蛍光管バックライトを使う従来の液晶ディスプレイが約 70%、CRT ディスプレイ（ブラウン管）が約 80% の色再現にとどまるのに対し、ほぼ 100% をカバーする本機では、深紅や深緑といったこれまでのディスプレイでは難しかった鮮やかな色あいを、より本物に近い質感で再現します。DTP、印刷の分野で標準として用いられる「Adobe RGB」にも対応します。また、フィードバック回路により、安定した明るさと高純度を長期にわたって実現します。

高品位なデインターレース・スケーリングなどを可能にする高性能映像プロセッサー

従来のテレビ放送・DVD など、標準解像度・インターレース方式の映像を、デジタルハイビジョン相当の高解像度・プログレッシブ方式の信号に変換する高性能映像プロセッサーを搭載しています。
映像の動きをピクセル単位で検出し補正することで、拡大・プログレッシブ化処理に伴って発生しやすいギザギザや縞模様などのノイズを抑え、滑らかで情報量の多い高密度映像を実現しています。

D4 端子、HDCP 対応の DVI 端子、アナログ RGB 端子など豊富なインタフェースを装備

デジタルチューナーと接続してハイビジョン放送を高解像度で入力できる D4 端子をはじめ、S ビデオ端子、コンポジットビデオ端子、アナログ RGB 端子など豊富なインタフェースを備えています。バイオだけでなく、ビデオデッキや DVD プレーヤーなどとも接続できます。

高音質を実現する「S-Master」デジタルアンプと大容積スピーカーを搭載

ソニーのオーディオ部門で開発したフルデジタルアンプ「S-Master」（S マスター）を搭載。入力部でデジタルに変換後、スピーカーへの伝送直前までフルデジタルで処理するため、信号の純度を高く保つことが可能です。またスピーカーにはディスプレイ内蔵型としては異例の、1000cc もの大容量をもった 2-Way スピーカーを搭載し、繊細な空気感をも表現する高音と、音圧感のあるダイナミックな低音を実現します。

手軽にテレビ放送を楽しめるテレビチューナー搭載

テレビチューナー（地上アナログ放送用）を搭載、本機ならではの高画質機能を活かした美しいテレビ映像が楽しめます。手軽に操作できるリモコンを付属し、日常のテレビとしても活躍します。

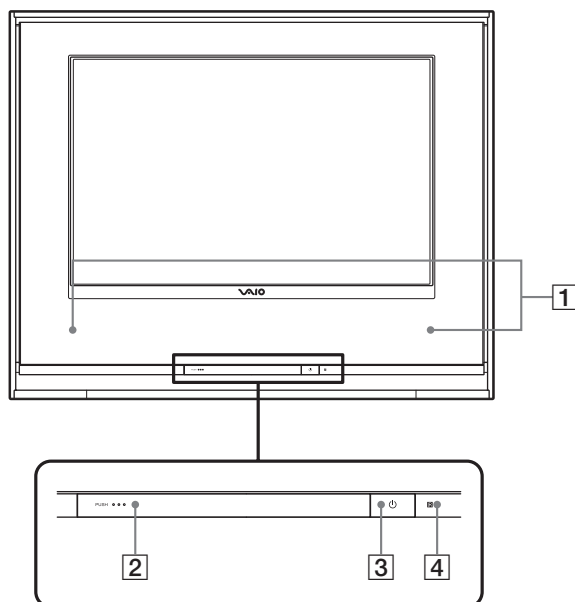
付属品を確かめる

本機をお使いになる前に、下記のものがそろっていることをご確認ください。

- 液晶ディスプレイ
- リモコン
- 電源コード
- アンテナ接続ケーブル
- DVI 複合ケーブル（DVI-D/ オーディオ /USB）
- CD-ROM（ディスプレイ用ドライバ /Windows ユーティリティ）
- 保証書
- 取扱説明書（本書）

各部の名前とはたらき

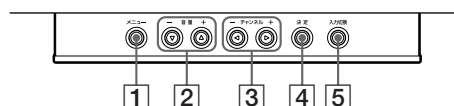
使いかたについてのくわしい説明は（　）内のページをご覧ください。

前面

1 **ステレオスピーカー**
音声を出力します。

2 **PUSH（トレイ引き出し）ボタン**
トレイを引き出すときに押します。

3 **⏻（電源）ボタン（17、34、37 ページ）**
⏻（電源）ランプは次のようになります。
電源が入っているとき：緑色に点灯
電源が切れているとき：赤色に点灯
サスペンドのとき：オレンジ色に点灯

4 **リモコン受光部（40 ページ）**
リモコンからの信号を検知します。前面をおおわないようにしてください。
受信した信号は、本機を操作したり、USB アップストリーム端子／コントロール S 端子に出力します。

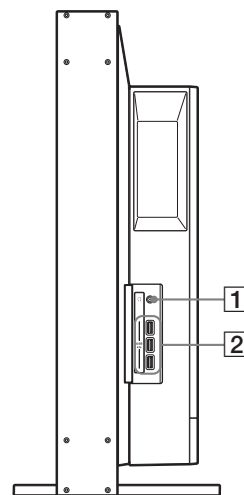
トレイ

1 **メニューボタン（30 ページ）**
メニュー画面を出すときに押します。

2 **▽(−)/△(＋) ボタンおよび音量（− / ＋）ボタン（28 ページ）**
▽(−)/△(＋) ボタンとしてメニュー項目を選んだり、調節したりするときに使います。
また、音量を調節するときにも使います。

3 **◁(−)/▷(＋)、およびチャンネル（− / ＋）ボタン（27 ページ）**
◁(−)/▷(＋) ボタンとしてメニュー項目を選んだり、チャンネルを選ぶときに押します。

4 **決定ボタン（30 ページ）**
メニュー項目を決定するときに押します。

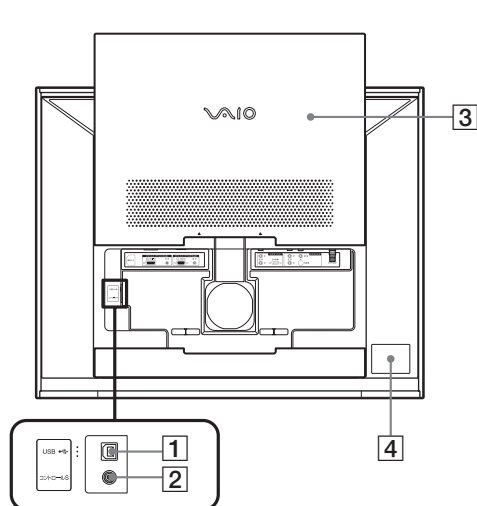
5 **入力切換ボタン（23、27 ページ）**
コンピュータ、テレビ、またはビデオ入力端子からの信号を選びます。

右側面

1 **ヘッドホン端子（26 ページ）**
ヘッドホンにつないで、音声信号を出力します。

2 **USB（ユニバーサル・シリアル・バス）ダウンストリーム端子（21 ページ）**
USB 規格に対応した周辺機器をつなぐことができます。

本機の USB 端子は、USB2.0 規格（High-speed/Full-speed/Low-speed）に対応しています。
USB2.0 規格は、USB（Universal Serial Bus）の新しい規格で、USB1.1 規格（Full-speed/Low-speed）より高速なデータ転送が可能です。USB2.0 規格に対応している端子には、USB1.1 規格に対応した機器もつなげます。

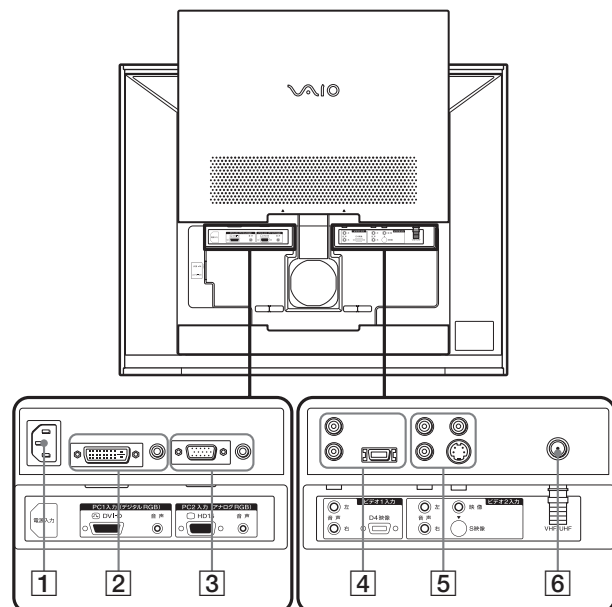
次のページへつづく

後面

1 **USB（ユニバーサル・シリアル・バス）アップストリーム端子（21 ページ）**
コンピュータの USB コネクタにつなぐと、本機の USB ハブ機能を使い、本機の USB ダウンストリームコネクタにつないだ周辺機器が使えます。USB リモコン機能を持ったコンピュータにつなぐと、本機にコンピュータのリモコンを向けてコンピュータを操作できます。

本機の USB 端子は、USB2.0 規格（High-speed/Full-speed/Low-speed）に対応しています。
USB2.0 規格は、USB（Universal Serial Bus）の新しい規格で、USB1.1 規格（Full-speed/Low-speed）より高速なデータ転送が可能です。USB2.0 規格に対応している端子には、USB1.1 規格に対応した機器もつなげます。

2 **コントロール S 端子（21 ページ）**
ソニー製機器のコントロール S 端子とつないで、本機にリモコンを向けてソニー製機器を操作できます。

3 **端子カバー**
ケーブル類を接続するときに開きます。
カバー下部にある左右の△印の部分を持ち、カチッと音がするまで上部に押し上げます。

4 **機銘板ラベル（41 ページ）**
型名、製造番号などが記載されています。

1 **電源入力プラグ（17 ページ）**
電源コードをつなぎます。

2 **PC1 入力（デジタル RGB）（15 ページ）**

DVI-D（ディーブイアイ　ディー）入力端子：
コンピュータの DVI-D（デジタル RGB）端子とつなぎます。

音声入力端子（ステレオミニジャック）：
コンピュータの音声出力端子につなぎ、音声信号を入力します。

3 **PC2 入力（アナログ RGB）（15 ページ）**

HD15 入力端子：
コンピュータの HD15（アナログ RGB）端子とつなぎます。

音声入力端子（ステレオミニジャック）：
コンピュータの音声出力端子につなぎ、音声信号を入力します。

4 **ビデオ 1 入力（23 ページ）**

D4 映像入力端子：
DVD プレーヤーや地上・BS・110 度 CS デジタルハイビジョンチューナーなどの D1 ／ D2 ／ D3 ／ D4 映像出力端子につなぎます。

音声（左／右）入力端子：
DVD プレーヤーや地上・BS・110 度 CS デジタルハイビジョンチューナーなどの音声出力端子につなぎます。

5 **ビデオ 2 入力（22、23 ページ）**

S 映像入力端子：
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの S 映像出力端子とつなぎます。映像入力端子から入力された映像に比べ、よりきれいな映像を本機で見たり録画することができます。

映像入力端子：
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの映像出力端子とつなぎます。映像を本機で見たり録画するときに使います。S 映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは、S 映像入力端子からの入力が自動的に選ばれます。

音声（左／右）入力端子：
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力端子とつなぎます。

6 **VHF/UHF アンテナ端子（16 ページ）**
VHF/UHF 用のアンテナ接続ケーブル（付属）やケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

D 端子について

日本国内には次のような映像信号フォーマットがあります。

映像信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i（480i）	525 本	480 本
525p（480p）	525 本	480 本
1125i（1080i）	1125 本	1080 本
750p（720p）	750 本	720 本

i はインターレース：飛び越し走査、p はプログレッシブ：順次走査の略です（35 ページ）。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

各映像の信号フォーマットに対応する D 端子の種類は次のようになっています。

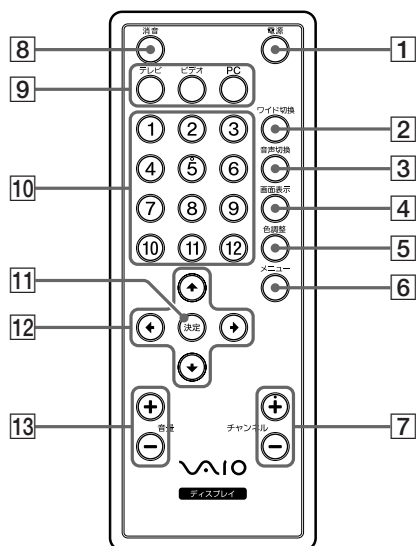
D 端子の種類とその対応映像信号フォーマット

D 端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1 端子	○	×	×	×
D2 端子	○	○	×	×
D3 端子	○	○	○	×
D4 端子	○	○	○	○

つないだ機器の出力設定については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

次のページへつづく

リモコン

本機は付属のリモコン（RM-VD10）で操作してください。本機に付属のリモコンのリモコンコードは、一般のテレビのリモコンコードと異なるため、市販のテレビの操作はできません。本機は付属のリモコンとソニー製テレビの両方のリモコンコードに対応しています。メニューからの設定変更で本リモコンのリモコンコードにのみ対応させることができます（33 ページ）。

1 **電源ボタン（27 ページ）**

2 **ワイド切換ボタン**

3 **音声切換ボタン（29 ページ）**

4 **画面表示ボタン（28 ページ）**

5 **色調整ボタン（26、29 ページ）**

6 **メニューボタン（30 ページ）**

7 **チャンネル＋ / −ボタン（27 ページ）**

8 **消音ボタン（28 ページ）**

9 **入力切換用ボタン（27 ページ）**
- テレビボタン
- ビデオボタン
- PC ボタン

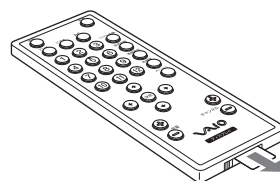
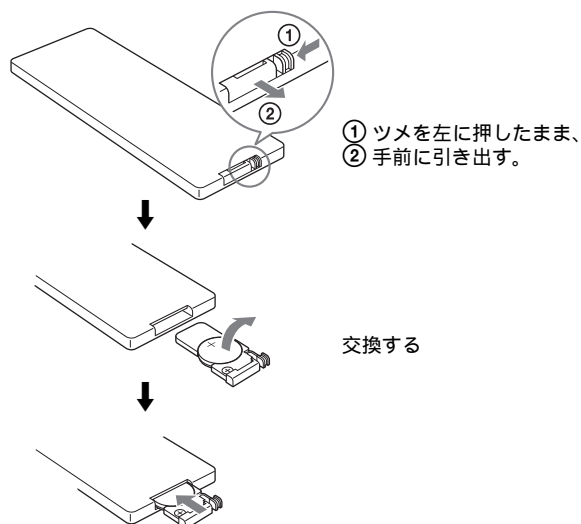
10 **チャンネル数字ボタン（27 ページ）**

11 **決定ボタン（30 ページ）**

12 **↑（上）/↓（下）/←（左）/→（右）ボタン（30 ページ）**

13 **音量＋ / −ボタン（28 ページ）**

ご注意

- お使いになる前に、透明なシートを引き出してください。シートをはさんだままでは、ご使用になれません。

- 電池を交換するときは、ボタン型リチウム電池（CR2025）をお使いください。

- 落としたり、踏みつけたり、中に液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- 直射日光が当たる所、暖房器具のそばや湿度が高い所には置かないでください。

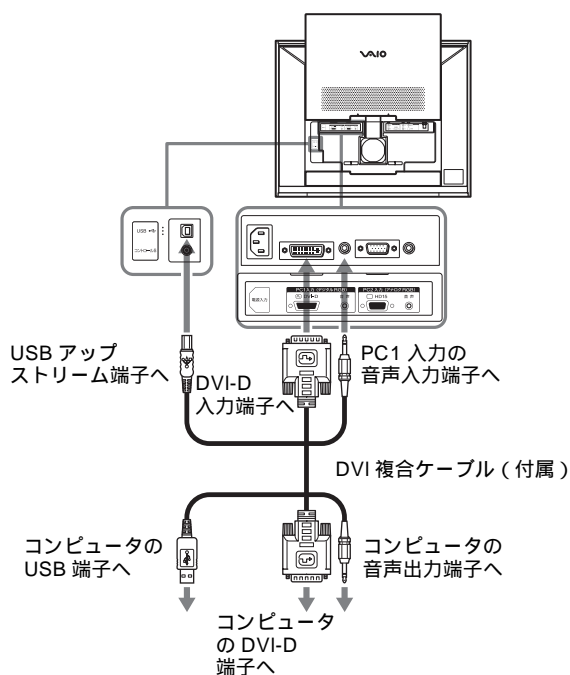
接続と設定

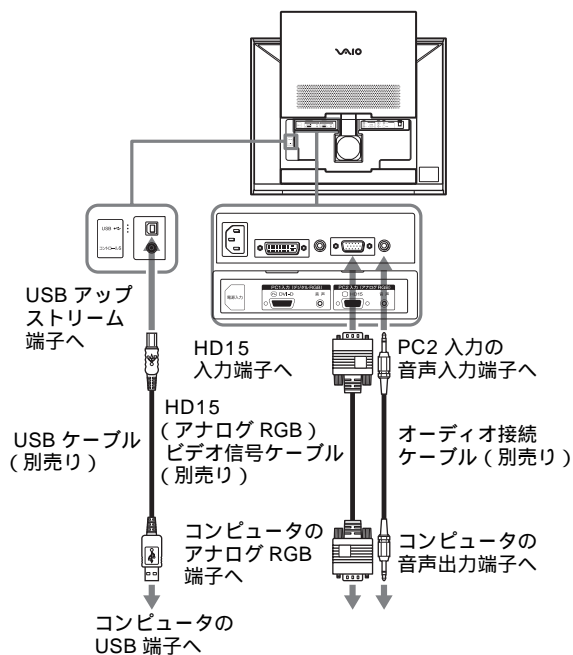
1 コンピュータにつなぐ

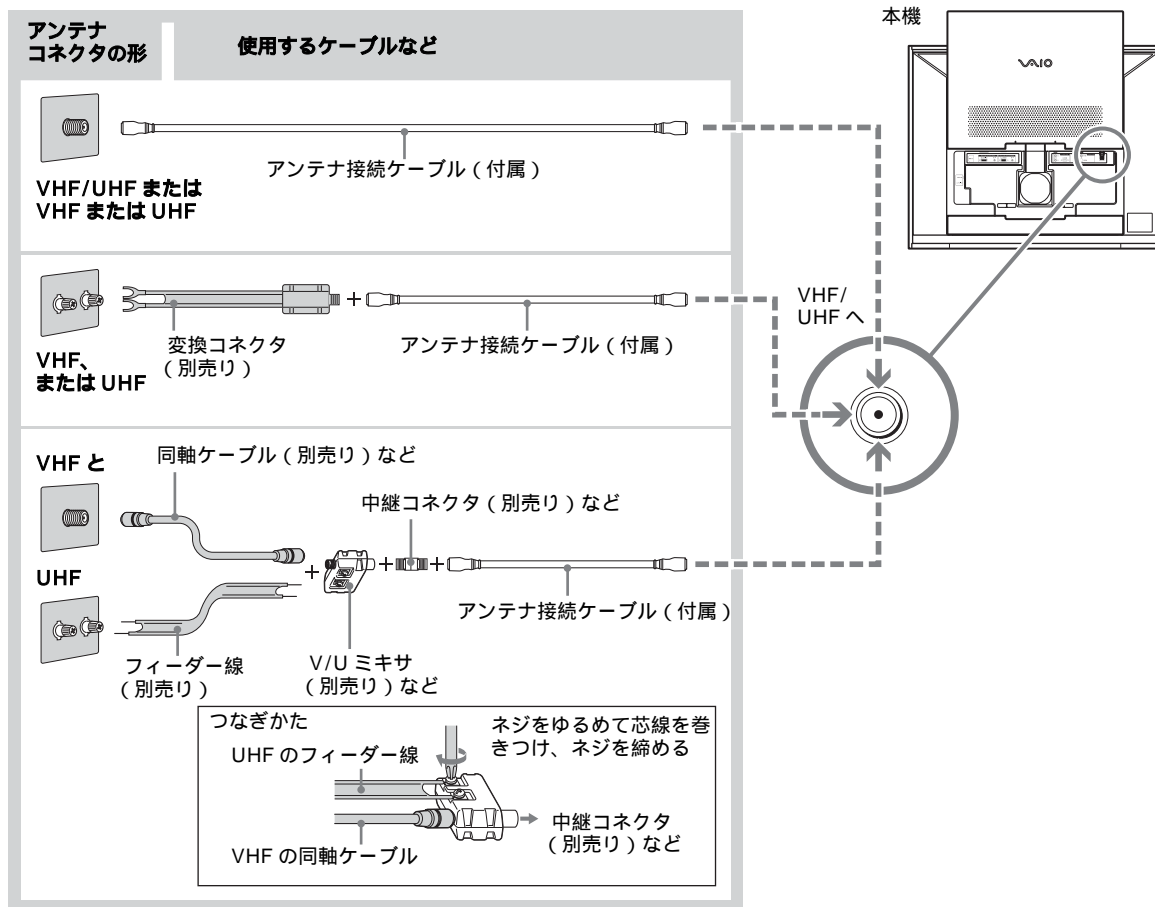
本機とコンピュータの電源を切った状態でつないでください。
PC1 入力と DVI-D（デジタル RGB）端子のあるコンピュータをつなぐときは、付属の DVI 複合ケーブル（DVI-D ／オーディオ／ USB）でつないでください。
PC2 入力と HD15（アナログ RGB）端子のあるコンピュータをつなぐときは、別売りのアナログケーブルとオーディオケーブルおよび USB ケーブルでつないでください。

ご注意

ディスプレイのケーブルのピンに、直接手を触れないでください。

PC1 入力（デジタル RGB）につなぐ場合

PC2 入力（アナログ RGB）につなぐ場合

次のページへつづく

2 テレビアンテナをつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。
下の例から最も近いものを選び、つないでください。いずれにも当てはまらないときは、販売店などにご相談ください。

きれいな画像をお楽しみいただくために

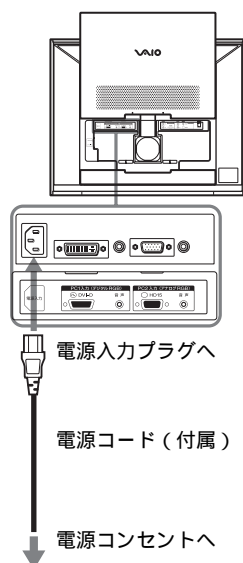
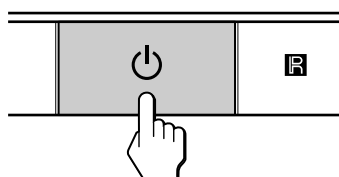
本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、妨害電波を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- 後面の VHF/UHF アンテナ端子への接続には、**必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- アンテナ線は他のコードからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

ご注意

フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万一、フィーダー線をご使用になるときは、本機からできるだけ離してください。

3 電源を入れる

1 電源コードをつなぐ。
ディスプレイ、コンピュータ、その他の機器の電源をすべて切った状態でつないでください。電源入力プラグに電源コードをつないでから、電源コンセントへ差し込みます。

2 電源を入れる。
⏻（電源）ボタンを押すと、⏻（電源）ランプが緑色に点灯します。

3 コンピュータおよびその他の機器の電源を入れる。

ディスプレイの電源を入れても画面に画像が出ないときは

- 正しくつないでいるか確認する。
- 「入力信号がありません」と表示されているとき
  - コンピュータが省電力状態になっている。キーボードのキーのどれかを押してみるか、マウスを動かしてみる。
  - 入力切り換えが正しいか確認する。
  - ビデオ信号ケーブルを正しくつないでいるか確認する。
- 「対応していない入力信号です」と表示されている場合、本機をつなぐ前につないでいたディスプレイがあるときは、それにつなぎ換えてみる。画像が出たら、コンピュータで水平周波数：30 〜 75kHz、垂直周波数：55 〜 65Hz の範囲に設定する。

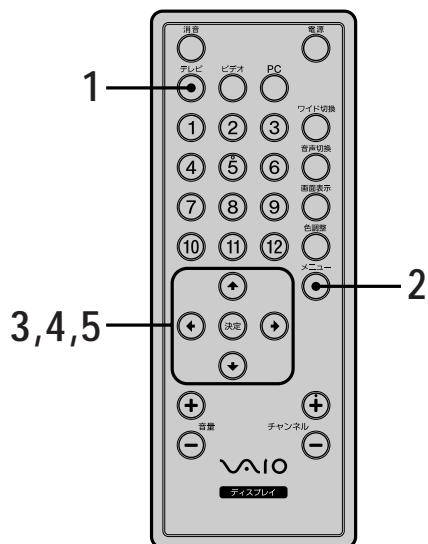
くわしくは、「よくあるトラブルと解決方法」（37 ページ）をご覧ください。

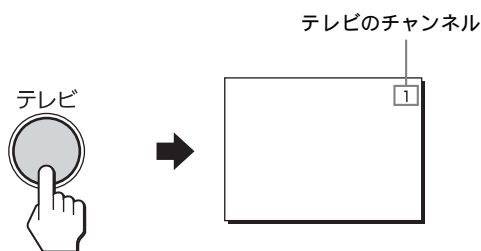
モニタ用のドライバは不要です
本機はプラグ & プレイ機能（DDC）を搭載しており、Windows のプラグ & プレイ機能によりモニタの情報が自動的に認識されます。このため、モニタ用の特別なドライバは通常不要です。本機とコンピュータをはじめて起動したとき、設定用のウィザードが表示される場合は、その手順に従ってください。プラグ & プレイモニタが自動的に選ばれて、使用できる状態になります。

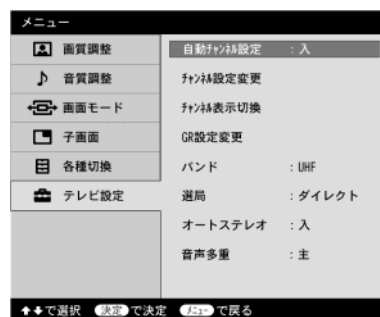
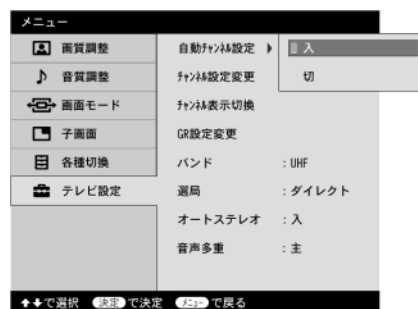
これで自動的に垂直周波数は 60Hz になります。
本機ではちらつきは目立ちませんので、このままの垂直周波数でお使いいただけます。垂直周波数を上げる必要はありません。

次のページへつづく

4 チャンネルを自動設定する

受信できる VHF/UHF 放送を、リモコンの数字ボタンに自動的に設定します。放送のある時間帯に行ってください。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときなどは、「チャンネルを手動設定する」（19 ページ）をご覧ください。

リモコンを使います。

1 テレビボタンを押して、画面にテレビのチャンネルを出す。

2 メニューボタンを押す。

3 ↑/↓ ボタンを押して「テレビ設定」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ ボタンで「自動チャンネル設定：入」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓ ボタンで「入」を選び、決定ボタンを押す。
自動的に設定が始まります。

設定が終わると、メニューが消えます。

* 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なることがあります。

6 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは
「チャンネルを手動設定する」（19 ページ）をご覧ください。

これで、本機を使用できる状態になりました。必要に応じて、他の設定や調整などを行ってください。

ケーブルテレビを見る

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。本機では、C13 〜 C63 までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。
くわしくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。
リモコンを使います。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓ ボタンで「テレビ設定」を選び、決定ボタンを押す。
ダイレクト選局になっていることを確認します（25 ページ）。

3 ↑/↓ ボタンで「バンド」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ ボタンで「CATV」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓ ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

6 ↑/↓ ボタンでケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。

7 ↑/↓ ボタンで「CH」の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、決定ボタンを押す。
ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
例：C24

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ケーブルテレビと UHF 放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10 キー選局」（24 ページ）をするときは、上記で受信設定をした後、「10 キー選局」に切り換えてください。

チャンネルを手動設定する

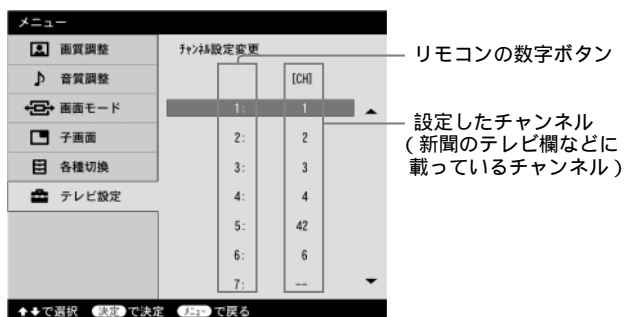
自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばしたりすることができます。

リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変える

リモコンの数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。
リモコンを使います。

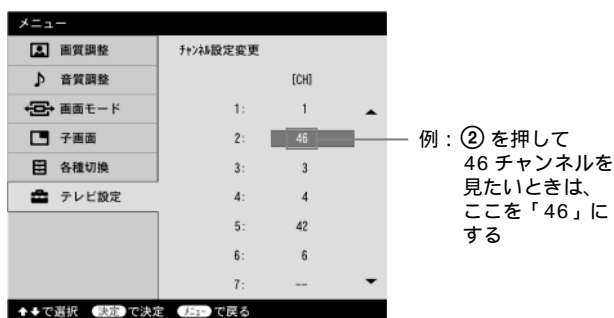
1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓ ボタンで「テレビ設定」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ ボタンで変更したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓ ボタンで設定したチャンネルを変更し、決定ボタンを押す。

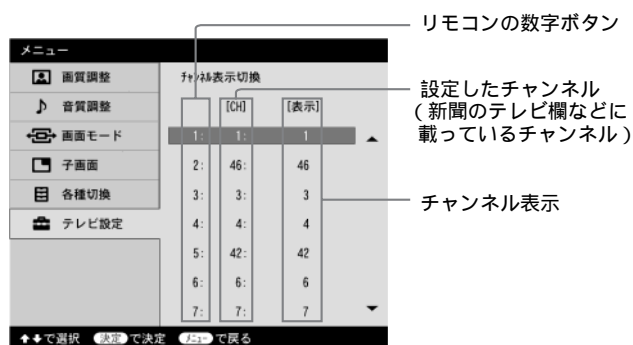
6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

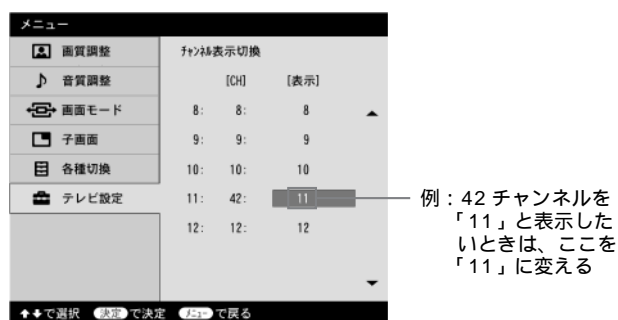
次のページへつづく

チャンネル表示を切り換える

画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに切り換えることができます。
リモコンを使います。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ⬆/⬇ ボタンで「テレビ設定」を選び、決定ボタンを押す。

3 ⬆/⬇ ボタンで「チャンネル表示切換」を選び、決定ボタンを押す。

4 ⬆/⬇ ボタンで切り換えたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 ⬆/⬇ ボタンでチャンネル表示を切り換え、決定ボタンを押す。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

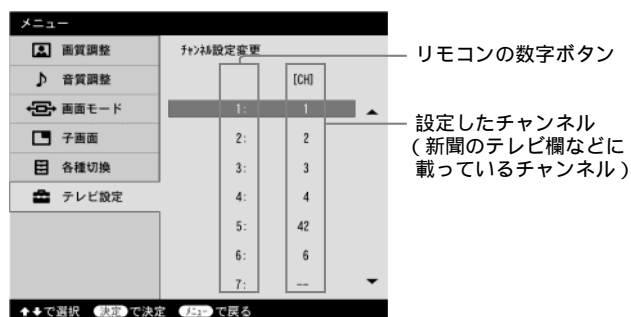
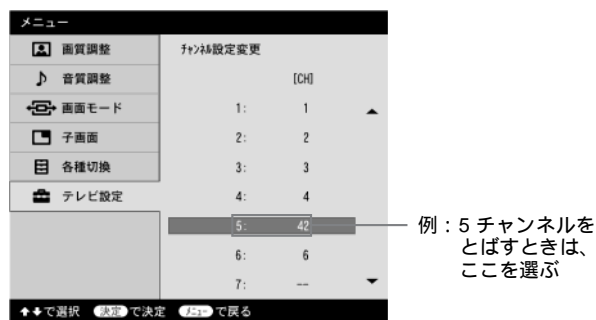
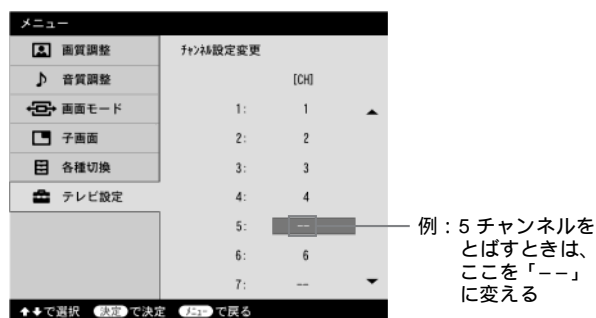
チャンネルと表示が 1 対 1 で対応するように、チャンネル表示を切り換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。

放送のないチャンネルをとばす

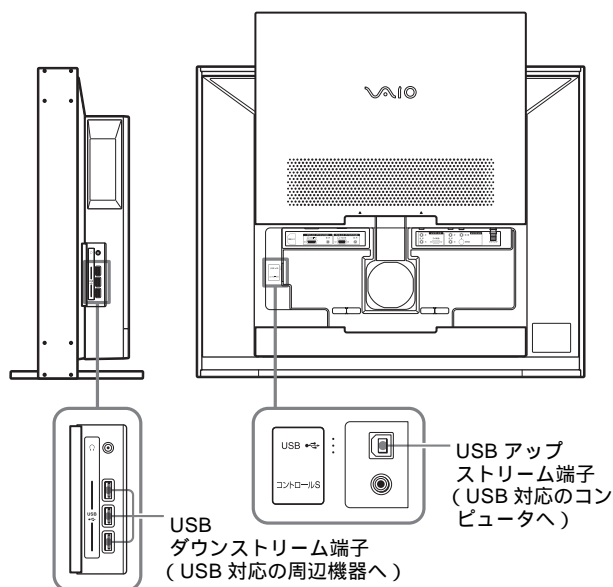
チャンネル＋ / －ボタンでチャンネルを選ぶときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。
リモコンを使います。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ⬆/⬇ ボタンで「テレビ設定」を選び、決定ボタンを押す。

3 ⬆/⬇ ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 ⬆/⬇ ボタンでとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 ⬆/⬇ ボタンで「CH」を「– –」に変えて、決定ボタンを押す。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ユニバーサル・シリアル・バス（USB）対応の機器につなぐ

本機には、ユニバーサル・シリアル・バス（USB）のコンピュータ用アップストリーム端子が 1 系統、周辺機器（キーボード、マウス、プリンタ、およびスキャナなど）用ダウンストリーム端子が 3 系統あります。本機が USB のハブ（中継点）の役目を果たすため、これらの端子を使って USB 対応の機器を簡単につなぐことができます。
本機を USB 対応機器のハブ（中継点）として使うときは、下図のようにつないでください。

1 本機とコンピュータの電源を入れる。

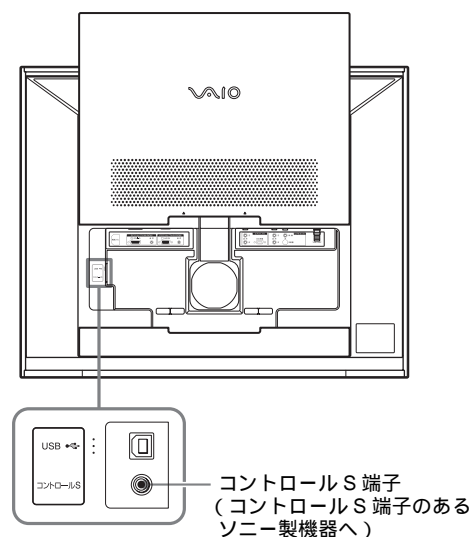
2 付属の DVI 複合ケーブルの USB ケーブルを使って、コンピュータを USB アップストリーム端子（後面）につなぐ（15 ページ）。

3 USB 対応の周辺機器を USB ダウンストリーム端子（右側面）につなぐ。

ご注意

- この方法で使用できるのは、コンピュータおよび OS が USB に対応しているときのみです。くわしくは、コンピュータまたは OS の取扱説明書をご覧ください。
- USB 端子を使用して周辺機器をつなぐときは、ほとんどの場合、USB 対応のソフトウェアをコンピュータにインストールする必要があります。くわしくは、コンピュータまたは周辺機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の USB 端子を経由してコンピュータ、キーボード、マウスをつなぐと、最初にコンピュータを起動したときに、コンピュータをマウスやキーボードから操作できないことがあります。このときは、キーボードとマウスをコンピュータに直接つないで、コンピュータ上で USB 接続の設定を行ってください。その後、本機につなぎ直します。
- USB ダウンストリーム端子への接続を行うときは、ディスプレイに寄りかからないでください。ディスプレイが傾いて手などをはさむことがあります。

コントロール S 端子対応の機器につなぐ

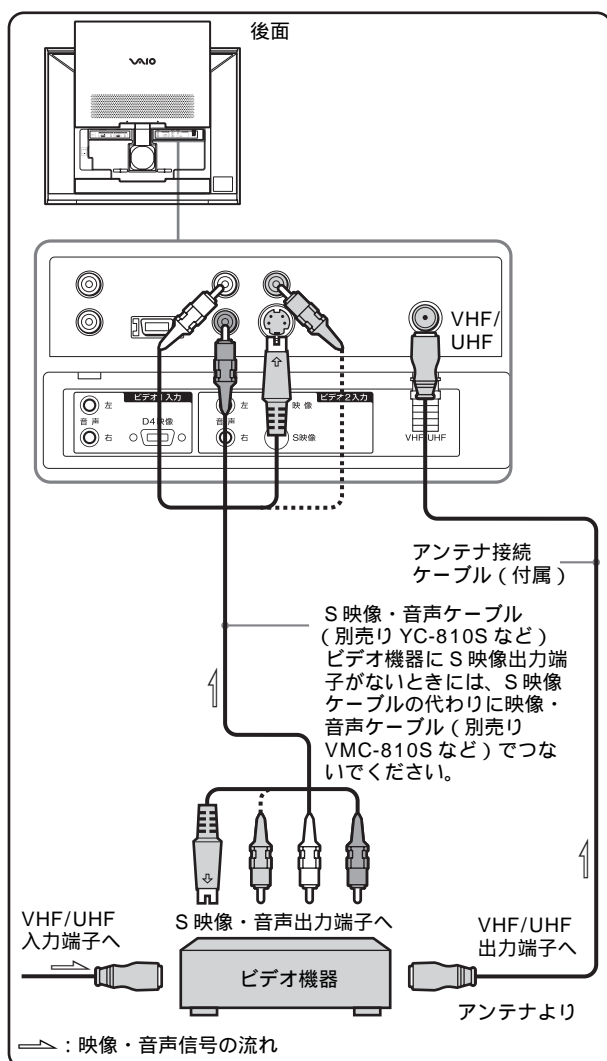
コントロール S 端子のあるソニー製機器と本機をコントロール S ケーブルでつなぐと、本機にリモコンを向けてソニー製機器を操作できます。

ビデオをつなぐ

ビデオデッキやビデオカメラなどをつなぎます。使用目的によってつなぎかたが異なりますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

S 映像入力端子と映像入力端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、S 映像入力端子につないでください。
つなぐ機器に S 映像出力端子がないときは、映像入力端子につなぎます。

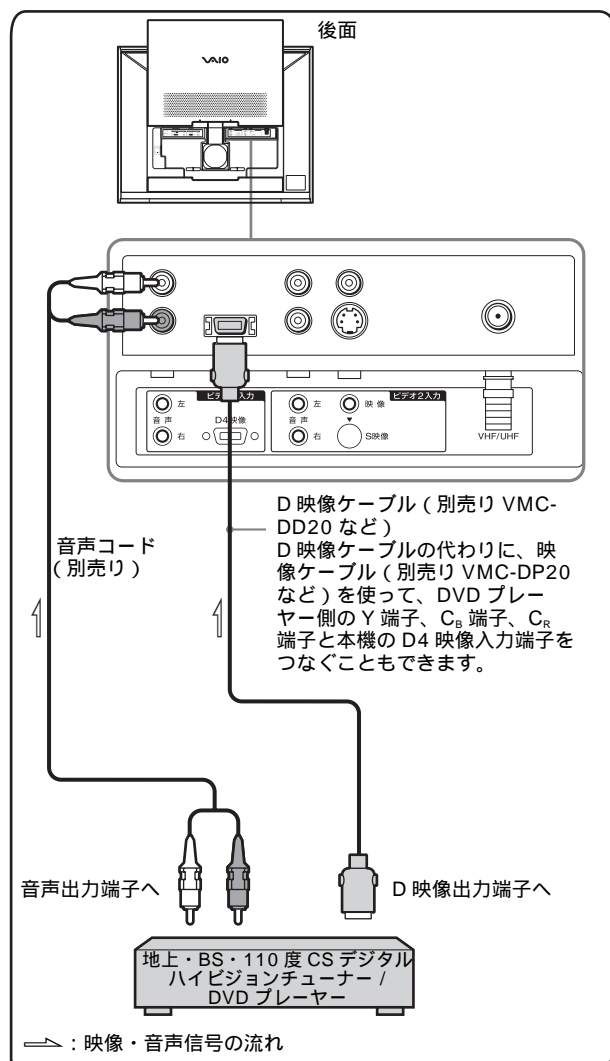
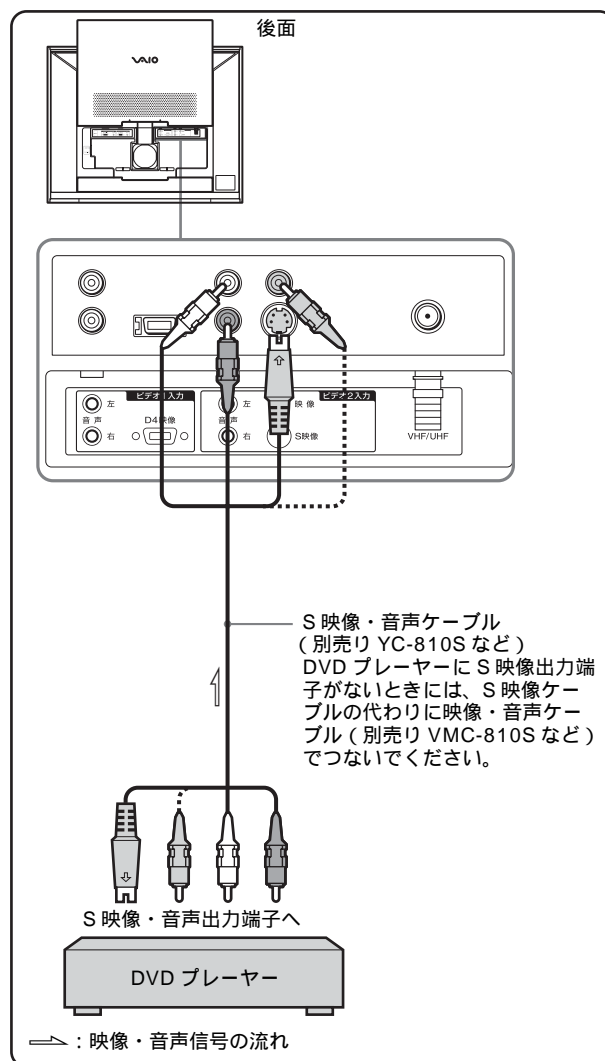
S 映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

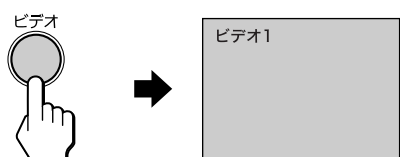
S 映像入力端子からの入力が自動的に選ばれます。映像入力端子から入力したいときは、S 映像入力端子には何もつながないでください。

地上・BS・110 度 CS デジタルハイビジョンチューナーや DVD プレーヤーをつなぐ

地上・BS・110 度 CS デジタルハイビジョンチューナーやコンポーネントビデオ出力端子のある DVD プレーヤーは本機のビデオ 1 入力端子につなぐと、より高画質な画像をお楽しみいただけます。
DVD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

地上・BS・110 度 CS デジタルハイビジョンチューナーやコンポーネントビデオ出力端子のある DVD プレーヤーのときは

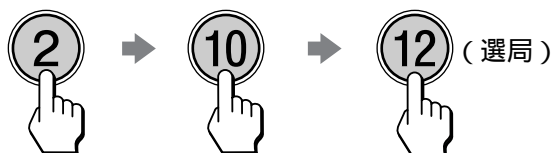
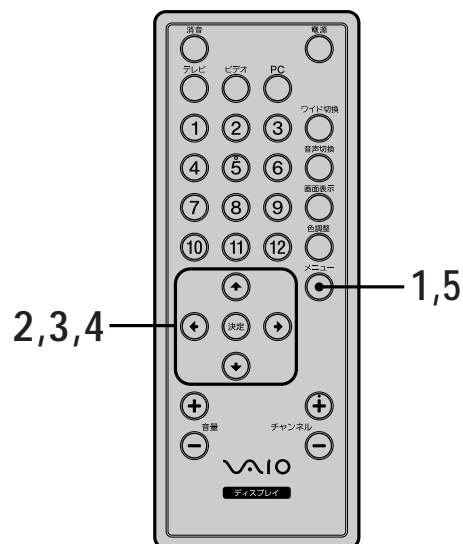
ビデオ 1 入力端子につないだ DVD プレーヤーを使って DVD を見るには

画面表示が「ビデオ 1」になるまで、リモコンのビデオボタンか本機トレイの入力切換ボタンをくり返し押してください。

コンポーネントビデオ出力端子のない DVD プレーヤーのときは

ビデオ 2 入力端子につないだ DVD プレーヤーを使って DVD を見るには

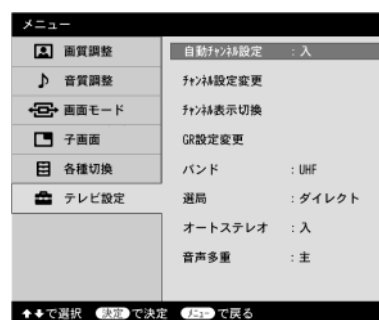
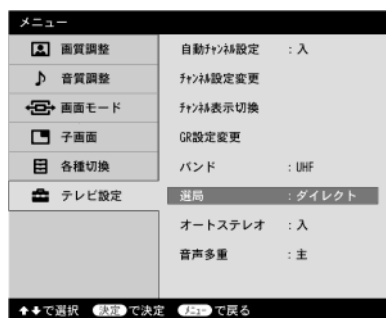
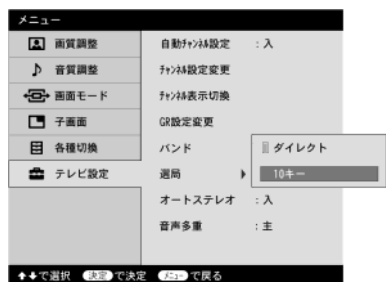
画面表示が「ビデオ 2」になるまで、リモコンのビデオボタンか本機トレイの入力切換ボタンをくり返し押してください。

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（10 キー選局）

お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。「ダイレクト選局」は、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大 12 局です。
そのため、ケーブルテレビなど見たいチャンネルの数が 12 局を越えるときは、「10 キー選局」に変えてください。
「10 キー選局」では、数字ボタンを十の位・一の位の順に押した後、⑫（＝選局）ボタンを押して、チャンネルを選びます。0 は ⑩ ボタンを使います。

例）14 チャンネル

20 チャンネル

10 キー選局に変更するには

リモコンを使います。

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓ ボタンで「テレビ設定」を選び、決定ボタンを押す。

3 ⬆/⬇ ボタンで「選局」を選び、決定ボタンを押す。

4 ⬆/⬇ ボタンで「10 キー」を選び、決定ボタンを押す。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ダイレクト選局に戻すには
手順 4 で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- チャンネルを自動設定する（18 ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、前ページの手順 2 の後に下記を行ってください。
  1 ⬆/⬇ ボタンで「バンド」を選び、決定ボタンを押す。
  2 ⬆/⬇ ボタンで「CATV」を選び、決定ボタンを押す。
  3 上記の手順 3 以降を行う。

チャンネル＋ / －ボタンで選ぶ放送を設定する

お買い上げ時は 1 ～ 12 チャンネルが順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどでこれ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。
リモコンを使います。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ⬆/⬇ ボタンで「テレビ設定」を選び、決定ボタンを押す。

3 ⬆/⬇ ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 ⬆/⬇ ボタンで見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

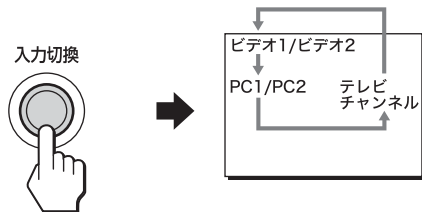
5 ⬆/⬇ ボタンで見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「– –」を選び、決定ボタンを押す。

6 複数のチャンネルを設定するときは、手順 4 と 5 をくり返す。

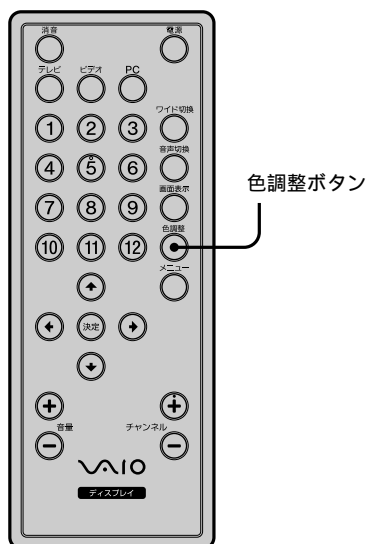
7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

コンピュータ

コンピュータの画面に切り換える

入力切換ボタンを押す。
押すたびに入力が切り換わります。

リモコンの PC ボタンも使えます。
PC ボタンを押すたびに PC1 入力と PC2 入力が切り換わります。

コンピュータの画質を調整する

リモコンの色調整ボタンを押すと、好みの画質に調整できます。

ご注意

テレビやビデオの画像の時は、コンピュータの画質とは別のテレビ・ビデオ用の画質を選べます。くわしくは、「テレビやビデオの画質を調整する」(29 ページ)をご覧ください。

1 リモコンの色調整ボタンを押す。
「色調整」メニューが表示されます。

2 ↑/↓ ボタンを押して「ダイナミック」「Adobe RGB」「sRGB」から好みの色空間を選び、決定ボタンを押す。

設定	内容
ダイナミック	従来の色空間を違和感少なく拡張します。
Adobe RGB	Adobe RGB の色空間を再現します。
sRGB	国際規格 sRGB の色空間を再現します。

「Adobe RGB」「sRGB」を選んだ場合、選んだ画質に切り換わります。

3「ダイナミック」を選んだ場合、↑/↓ ボタンで「色の濃さ」と「色あい」を選び、←/→ ボタンで調整する。

項目	← (−)	→ (+)
色の濃さ	淡くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる

4 決定ボタンを押す。
メニューが消え、選んだ画質に切り換わります。

メニューボタンからも選べます(31 ページ)。

つないだ機器の音声を聞く

本機のスピーカーから、PC 入力の音声入力端子につないだ機器の音声や音楽、オーディオファイルの音などを聞くことができます。
付属の DVI 複合ケーブル(DVI-D/ オーディオ /USB)などを使って、本機の音声入力端子をコンピュータやビデオ / オーディオ機器の音声出力端子につないでください(15 ページ)。

音量を調整する

リモコンの音量+ / −ボタンまたはディスプレイの ∇(−)/∆(+) ボタンを押して音量画面を出し、音量を調整してください。
調整画面は、約 3 秒後に自動的に消えます。

一時的に音を消す

リモコンの消音ボタンを押してください。もう 1 度押すか、音量+ / −ボタンを押すと音が出ます。

ヘッドホンを使う

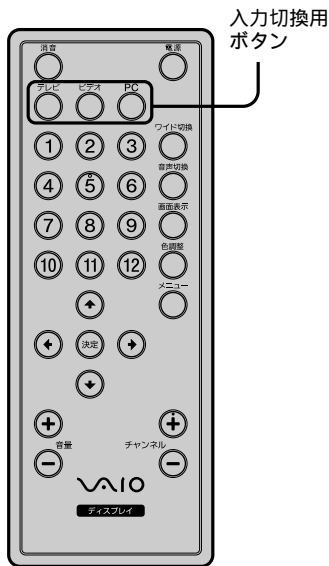
リモコンの音量+ / −ボタンまたはディスプレイの ∇(−)/∆(+) ボタンを押してヘッドホンの音量を調整してください。ヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聞こえなくなります。

ご注意

- メニュー画面を表示しているときは、音量を調整することはできません。
- コンピュータ使用時はディスプレイがサスペンドになると、スピーカーからの音が聞こえなくなります。

テレビ・ビデオ

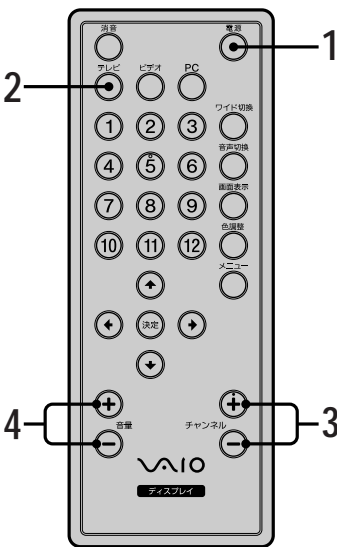
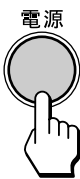
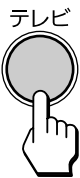
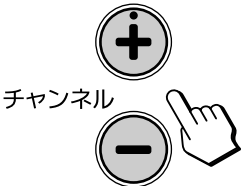
入力を切り換える（コンピュータ / テレビ）

本機はコンピュータ用のディスプレイとしてだけでなく、テレビとしてもお使いいただけます。また、コンピュータやビデオ機器、DVD プレーヤーなどをつなぎ、コンピュータ / テレビ / ビデオを切り換えて使うことができます。

入力切換用ボタンを押して、見たい画像を選びます。

ボタン	画面に映される画像
テレビ	テレビ
ビデオ	ビデオ入力端子につないだ機器 押すたびにビデオ 1 入力とビデオ 2 入力が切り換わります。
PC	PC 入力端子につないだコンピュータ 押すたびに PC1 入力と PC2 入力が切り換わります。

ディスプレイの入力切換ボタンも使えます（11 ページ）。

テレビを見る

リモコンとディスプレイのどちらでも操作できます。ここでは、リモコンを使って説明しています。

1 電源ボタンを押す。

2 テレビボタンを押す。
ディスプレイの入力切換ボタンも使えます。

3 チャンネル数字ボタンまたはチャンネル＋ / －ボタンを押して、チャンネルを選ぶ。
ディスプレイの ⊲（－）/⊳（＋）ボタンも使えます。
チャンネル＋ / －ボタンを押すと、① ～ ⑫ の放送が順に映ります。*

次のページへつづく

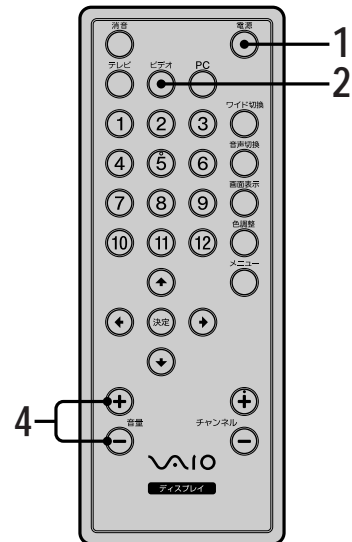
4 音量＋ / －ボタンを押して、音量を調整する。
ディスプレイの ▽(－)/△(＋) ボタンも使えます。

* チャンネル設定については、下記の項目をご覧ください。
- 「チャンネルを自動設定する」（18 ページ）
- 「チャンネルを手動設定する」（19 ページ）
- 「数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（10 キー選局）」（24 ページ）

音を一時的に消すには
リモコンの消音ボタンを押してください。
元に戻すには、消音ボタンをもう 1 度押してください。または音量＋ / －ボタンを押してください。

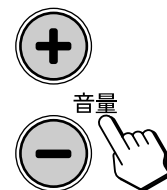
チャンネル表示などを出すには
リモコンの画面表示ボタンを押してください。
消すには、画面表示ボタンをもう 1 度押してください。
メニューでも設定できます。

テレビを消すには
電源ボタンを押してください。または、ディスプレイの ⏻（電源）ボタンを押してください。

ビデオや DVD などを見る

1 本機とビデオ機器や DVD プレーヤーなどの電源を入れる。

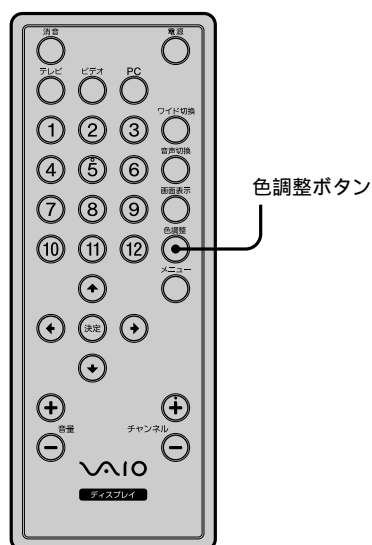
2 ビデオボタンを押す。
ビデオボタンを押すたびにビデオ 1 入力とビデオ 2 入力が切り換わります。
ディスプレイの入力切換ボタンも使えます。

3 ビデオ機器や DVD プレーヤーなどの再生ボタンを押す。
くわしくはビデオ機器や DVD プレーヤーなどの取扱説明書をご覧ください。

4 音量＋ / －ボタンを押して、音量を調整する。
ディスプレイの ▽(－)/△(＋) ボタンも使えます。

コンピュータの画面に戻すには
PC ボタンを押してください。

テレビ画面に戻すには
テレビボタンを押してください。

テレビやビデオの画質を調整する

リモコンの色調整ボタンを押すと、好みの画質に調整できます。

ご注意

コンピュータの画像の時は、テレビの色調整とは別のコンピュータ用の画質を選べます。くわしくは、「コンピュータの画質を調整する」（26 ページ）をご覧ください。

1 リモコンの色調整ボタンを押す。

「色調整」メニューが表示されます。

2 上下ボタンを押して「フル」「ダイナミック」「スタンダード」から好みの色空間を選び、決定ボタンを押す。

設定	内容
フル	本機の持つ広い色空間を余すことなく表現します。
ダイナミック	従来の色空間を違和感少なく拡張します。
スタンダード	従来のテレビ同等の色空間を再現します。

3 ↑/↓ ボタンで「色の濃さ」と「色あい」を選び、←/→ ボタンで調整する。

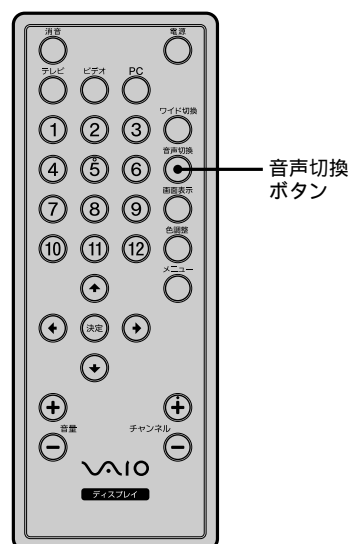
項目	←（−）	→（＋）
色の濃さ	淡くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる

4 決定ボタンを押す。

メニューが消え、選んだ画質に切り換わります。

メニューボタンからも選べます（31 ページ）。

音声を切り換える

二か国語放送など二重音声放送の聞きたい音声を選びます。

音声切換ボタンをくり返し押す。

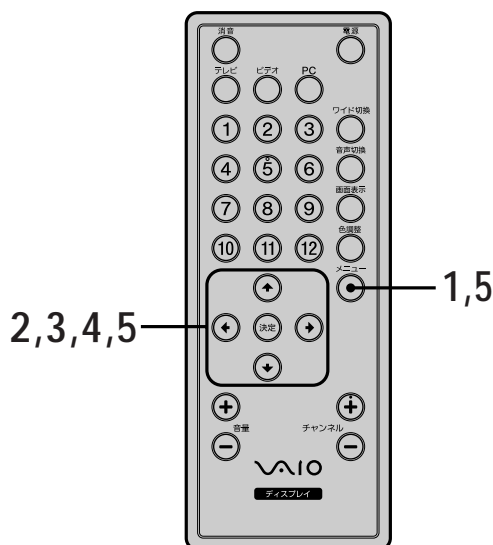
押すたびに下表のように切り換わります。

画面表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主	主音声	主音声
副	副音声	副音声
主 / 副	主音声	副音声

例：「主 / 副」を選んだとき

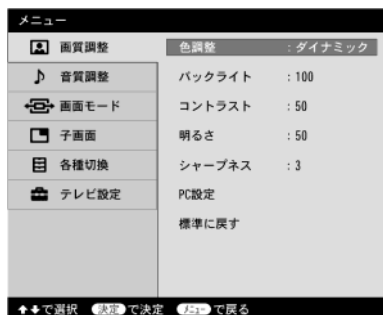
メニューボタンからも選べます（33 ページ）。

メニュー操作のしかた

本機では、各種調整や設定をメニュー画面で行います。

リモコンを使います。

1 メニューボタンを押す。
メニュー画面が表示されます。

2 ♠/♣ ボタンを押して設定したいメニューを選び、決定ボタンを押す。
選んだメニューの設定項目が表示されます。

3 ♠/♣ ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。
設定できる項目が、次の階層に表示されます。

4 ♠/♣ ボタンで設定項目を選び、決定ボタンを押します。

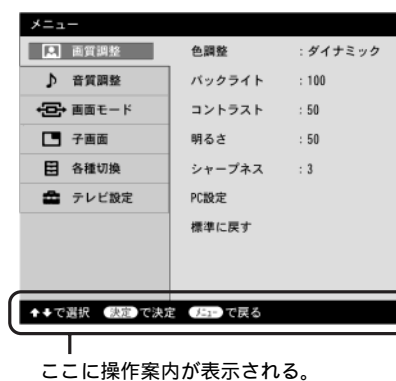
5 項目を調整、設定します。

数値を変更する項目の場合：
数値を大きくするときは、➡ ボタンを押します。
数値を小さくするときは、⬅ ボタンを押します。
決定ボタンを押すと変更が確定されます。

設定を選ぶ場合：
♠/♣ ボタンを押して設定を選び、決定ボタンを押すと設定が確定されます。
項目の内容について詳しくは、それぞれのメニューのページ（31 ページ）をご覧ください。

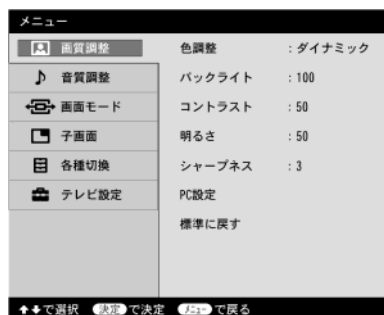
メニュー画面を消すには
メニューボタンを押します。
約 15 秒間操作をしない場合もメニューは自動的に消えます。表示時間を変更することもできます（33 ページ）。

操作の詳細はメニュー画面下部の操作案内に従ってください。

ここに操作案内が表示される。

メニュー一覧

入力信号によって調整できない項目はメニューに表示されません。

画質調整

画質を調整するメニューです。

色調整

映像の種類に合わせて、色調整（色空間）を選ぶためのメニューです。「フル」「ダイナミック」「スタンダード」では、「色の濃さ」と「色あい」の設定を調整することもできます。「色の濃さ」の設定値は、大きくなると濃くなり、小さくなると淡くなります。「色あい」の設定値は、大きくなると緑がかり、小さくなると赤みがかります。

フル：
本機の持つ広い色空間を余すことなく表現します。

ダイナミック：
従来の色空間を違和感少なく拡張します。

スタンダード：
従来のテレビ同等の色空間を再現します。

Adobe RGB：
Adobe RGB の色空間を再現します。
Adobe RGB は、米国アドビシステムズ社製のアプリケーションソフトウェア“ Photoshop ”にて用いられている標準の色空間です。

sRGB：
国際規格 sRGB の色空間を再現します。

バックライト

バックライト輝度を調整します。設定値が大きくなると明るくなり、小さくなると暗くなります。

コントラスト

コントラストを調整します。設定値が大きくなると強くなり、小さくなると弱くなります。

明るさ

明るさを調整します。設定値が大きくなると明るくなり、小さくなると暗くなります。

シャープネス

シャープネスを調整します。設定値が大きくなるとくっきりし、小さくなると柔らかくなります。

PC 設定

PC2 入力画面を表示している場合に特有の設定を行います。

オート調整：
クロック、フェーズ、画面位置の設定を、入力中の信号に最適な調整値にします。

ピッチ：
画面に縦縞が出ている場合、消えるように調整します。

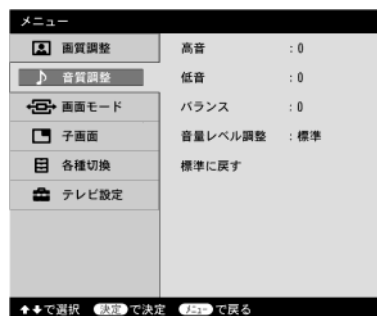
フェーズ：
画面全体がちらついたり、にじむように見える場合、補正します。

画面位置：
画面の水平／垂直位置を調整します。

標準に戻す

画質をお買い上げ時の設定に戻します。

音質調整

音質を調整するメニューです。

高音

高音の設定を調整します。設定値が大きくなると高くなり、小さくなると低くなります。

低音

低音の設定を調整します。設定値が大きくなると低くなり、小さくなると高くなります。

バランス

左右のスピーカーから出る音量を調整します。設定値が大きくなると右側のスピーカーの音量が、小さくなると左側のスピーカーの音量が大きくなります。

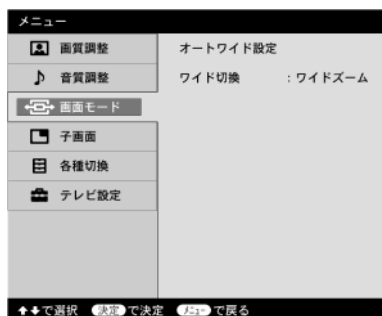
音量レベル調整

放送や入力端子ごとにつないだ機器の音量のレベルを調整します。設定値が大きくなると音量が大きくなり、小さくなると音量が小さくなります。

標準に戻す

音質をお買い上げ時の設定に戻します。

画面モード

画面モードを切り換えるメニューです。

オートワイド設定

画面表示の横縦比の設定を自動で変更します。

オートワイド：
オートワイドの入／切を設定します。「入」にすると、映像に合わせて本機が最適な画面モードを選びます。

4:3 映像：
4:3 映像の画面が表示されているときにワイド方式を選択します。

ワイド切換

画面表示の横縦比の設定を手動で変更します。

ワイドズーム：
オリジナルの映像を違和感少なく画面いっぱいに拡大します。

ズーム：
横縦比を維持しながら、画面いっぱいに拡大します。（映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。）

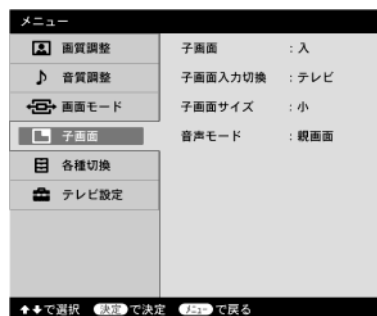
フル：
天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。

ノーマル：
オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比 4:3 のままの映像にします。
本機とコンピュータの電源を切った状態でつないでください。

ワイド画面についてのご注意

- このディスプレイは、各種のワイド切換機能を備えています。テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見えかたに差が出ます。この点にご留意の上、ワイド切換をお選びください。
- このテレビを営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、ワイド切換機能などを利用して画面の圧縮や引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の 4:3 の映像を、ワイドズームモードを利用してディスプレイの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。製作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。

子画面

子画面表示（2 画面で別々の画面を見る機能）の設定を調整するメニューです。

子画面

子画面の表示／非表示を切り換えます。

子画面入力切換

子画面に表示する画面（「テレビ」「ビデオ 1」「ビデオ 2」）を切り換えます。

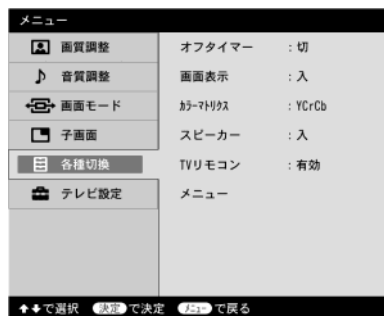
子画面サイズ

子画面のサイズを「大／小」から選びます。

音声モード

音声が出力される画面を切り換えます。

各種切換

本機に関する様々な設定を変更するメニューです。

オフタイマー

指定した時間が経過すると、ディスプレイの電源が強制的に切れます。

画面表示

チャンネル表示をします。

カラーマトリクス

ビデオ 1（D4 映像）につないだ地上・BS・110 度 CS デジタルハイビジョンチューナーなどの出力が、525p（480p)、1125i（1080i)、750p（720p）の各信号フォーマットのとき、「Y/Cr/Cb」または「Y/Pr/Pb」から、映像が自然な色あいになる方を選びます。

スピーカー

スピーカーの入／切を切り換えます。

TV リモコン

「入」にすると、本機のリモコンの操作と、ソニー製のテレビリモコンの操作を受信します。「切」にすると、本機のリモコンの操作のみを受信します。

メニュー

メニュー表示に関する設定を変更します。

表示時間：
メニューの表示時間を「10 秒」「30 秒」「60 秒」の中から選びます。

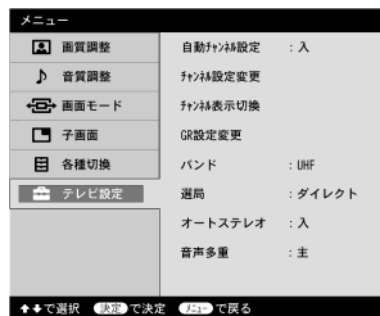
メニューロック：
メニュー項目を変更できないようにロックします。
誤操作を防止できます。

透過：
メニューの透過率を設定します。設定値が大きくなると、透過率が上がります。

情報：
「入力端子」「解像度」「水平周波数／垂直周波数」の情報を表示します。

出荷状態に戻す：
お買い上げ時の状態に戻します。

テレビ設定

テレビチューナーに関する設定を変更するメニューです。

自動チャンネル設定

「入」を選ぶと、自動的にチャンネル設定を行います。

チャンネル設定変更

- 「選局」で「ダイレクト」が選ばれている場合
  リモコン「1」～「12」に対応するチャンネルを「1」～「62」（UHF 時）または「C13」～「C63」（CATV 時）および「– –」（スキップ）から選びます。
- 「選局」で「10 キー」が選ばれている場合
  各チャンネル（「1」～「62」（UHF 時）または「C13」～「C63」（CATV 時））に対し、「受信」または「– –」（スキップ）を選びます。

チャンネル表示切換

リモコン「1」～「12」に対応する画面表示を「1」～「62」（UHF 時）または「C13」～「C63」（CATV 時）および「– –」（スキップ）から選びます。

GR 設定変更

各チャンネルに対する GR 設定を「入」または「切」および「– –」（スキップ）から選びます。

バンド

ケーブルテレビを受信する場合は、「CATV」を選びます。

選局

「ダイレクト」を選ぶと、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大 12 局です。ケーブルテレビなど、受信したいチャンネル数が 12 局を超えるときは、「10 キー」を選びます。

オートステレオ

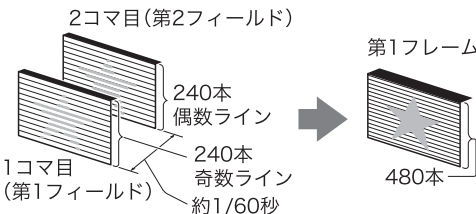
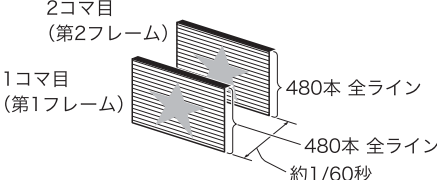
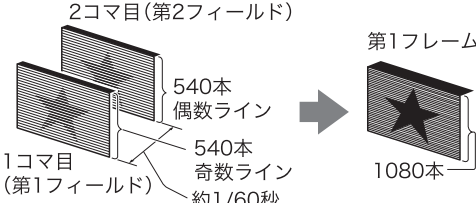
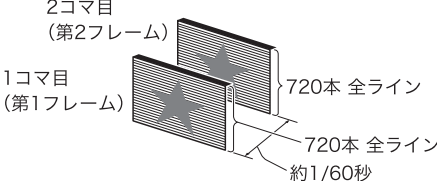
「入」を選ぶと、ステレオ放送受信時に自動的にステレオ音声に切り換わります。

音声多重

二か国語放送など二重音声放送の聞きたい音声を「主」「副」「主 / 副」から選びます。

機能解説

省電力（パワーセービング）機能（コンピュータ使用時のみ）

本機は、VESA および NUTEK のパワーセービングガイドラインに対応しています。DPMS（Display Power Management Signaling）に対応しているコンピュータやグラフィックボードにつなぐと、操作をしていないときは自動的にサスペンドになります。

本機の状態	消費電力	⏻（電源）ランプ
通常動作時	190W 以下 [*1]	緑点灯
サスペンド	3W 以下 [*2]	オレンジ点灯
⏻（電源）：切	3W 以下 [*2]	赤点灯

[*1] スピーカーを使用せず、USB 機器をつないでいないときの値です。
[*2] 本機の USB アップストリーム端子に電源の入ったコンピュータをつないでいないときの値です。

映像信号フォーマットについて

日本国内の映像信号フォーマット（画像方式）は、走査線数と走査方式によって、以下の 4 種類があります。

映像信号フォーマット	映像の種類	対応する D 端子
525i（480i） 525 本（480 本）の走査線を約 1/60 秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。通常のテレビ放送（VHF/UHF）の信号です。 	• 通常のテレビ放送（VHF/UHF） • ビデオ入力の映像 • コンポーネント入力の以下の映像 -BS デジタル標準テレビ放送（525i） -デジタル CS 放送 -DVD プレーヤーの映像	D1 端子 D2 端子 D3 端子 **D4 端子**
525p（480p） 525 本（480 本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。 	• コンポーネント入力の BS デジタル標準テレビ放送（525p） • コンポーネント入力の DVD プレーヤーの映像（プログレッシブ出力映像）	D2 端子 D3 端子 **D4 端子**
1125i（1080i） 1125 本（1080 本）の走査線を約 1/60 秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。 従来のハイビジョン放送は、有効走査線数が 1035 本です。 	• コンポーネント入力の BS デジタルハイビジョン放送（1125i） • コンポーネント入力の従来ハイビジョン機器の映像（ベースバンド）	D3 端子 **D4 端子**
750p（720p） 750 本（720 本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。 	• コンポーネント入力の BS デジタルハイビジョン放送（750p）	**D4 端子**

🠉（　）内は有効走査線数で数えたときの別称です。また、i はインターレース（飛び越し走査）、p はプログレッシブ（順次走査）の略。

🠉 つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。特に、BS デジタルチューナーの出力設定については、BS デジタルチューナー側の取扱説明書をご覧ください。

* コンポーネント入力は D 端子からの映像です。

走査線・有効走査線数

テレビ映像の動画は 1 秒間に 60 枚の静止画を連続して表示することにより再現します。それぞれの静止画は多数の線の集合としての面として描かれており、この線のことを走査線と呼びます。走査線の数は映像信号フォーマットごとに決まっており、走査線の数が多いほどきめ細かい高精細な映像と言えます。通常のテレビ放送の走査線数は 525 本、ハイビジョン放送では 1125 本となっています。

この走査線の中には映像信号のほかにさまざまな識別制御信号なども含まれており、全走査線数中の映像信号の走査線数を有効走査線数と呼びます。通常のテレビ放送の有効走査線数は 480 本、従来のハイビジョンでは 1035 本、デジタルハイビジョンでは 1080 本となっています。
このディスプレイは、固定ピクセルデバイスを採用しており、表示する走査線数はパネルによって固定的に決められています。

D 端子（コンポーネント入力）

デジタル CS 放送、BS デジタル放送および DVD プレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタル CS チューナーや DVD プレーヤーなどと、1 本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
このディスプレイには D4 映像入力端子が付いてます。

困ったときは

お買い上げ店などにご相談いただく前に、次の事項をご確認ください。

表示メッセージについて（コンピュータ使用時のみ）

入力信号が正しくないときは、画面に次のような表示メッセージが出ます。このときは、「よくあるトラブルと解決方法」（37 ページ）に従ってください。

「対応していない入力信号です」と表示されている場合
入力信号の周波数が、本機の仕様に合っていません。
以下を確認してください。

対応していない入力信号です

xxx. x kHz / xxx. x Hz

「xxx.x kHz / xxx.x Hz」と表示されている場合
水平または垂直周波数が、本機の仕様に合っていない。
数字の部分に現在入力されている信号の水平 / 垂直周波数が表示されます。

「入力信号がありません」と表示されている場合
PC 入力端子からの入力信号がありません。

入力信号がありません

パワーセーブに入ります

「パワーセーブに入ります」と表示されている場合
「パワーセーブ」の設定が「オン」のときは、このメッセージが表示されてから約 5 秒後にパワーセーブモードに入ります。

よくあるトラブルと解決方法

サービス・サポート窓口にご相談になる前に、下記の項目をもう 1 度チェックしてみてください。
それでも具合が悪いときは、VAIO カスタマーリンクにご相談ください。くわしくは、「お問い合わせ先について」（41 ページ）をご覧ください。

共通

こんなときは	原因と対処のしかた
画像が出ない	
⏻（電源）ランプが点灯していない。または、⏻（電源）ボタンを押しても ⏻（電源）ランプが点灯しない。	• 電源コードをつなぎ直す（17 ページ）。

コンピュータ

こんなときは	原因と対処のしかた
画像が出ない	
「入力信号がありません」という警告表示が出ている。または、⏻（電源）ランプがオレンジ色に点灯している。	• ビデオ信号ケーブルを正しくつなぐ（15 ページ）。 • ビデオ信号ケーブルのピンが曲がっている。まっすぐに直すか、別のケーブルを使う。 **■ コンピュータなど本機につないでいる機器が原因の場合** • コンピュータが省電力状態になっている。キーボードのキーのどれかを押すか、マウスを動かしてみる。 • コンピュータのグラフィックボードが正しくバススロットに差し込まれているか確認する。 • コンピュータの電源を入れる。
「対応していない入力信号です」という警告表示が出ている。	**■ コンピュータなど本機につないでいる機器が原因の場合** • 入力信号の周波数が、本機の仕様に合っていない。本機をつなぐ前につないでいたディスプレイがあるときは、それにつなぎ換えてみる。画像が出たら、周波数を以下の範囲に設定する。 水平周波数：30 ～ 75kHz、垂直周波数：55 ～ 65Hz（XGA の場合のみ 75Hz）

その他

次のページへつづく

コンピュータ

こんなときは	原因と対処のしかた
きれいに映らない	
画像が乱れる、ゆれる、ちらつく。	• ピッチとフェーズを調整する（アナログ RGB 信号のみ）（31 ページ）。 • 他のモニタ、レーザープリンタ、蛍光灯、テレビチューナー、扇風機など、磁界を発して干渉する可能性のあるものから本機を離して置く。 • 近くに送電線があるときは、本機を離して置くか、シールド板を本機の近くに置く。 • 離れた所にある他の電源につないでみる。 • ディスプレイの向きを変えてみる。 **■ コンピュータなど本機につないでいる機器が原因の場合** • コンピュータのグラフィックボードで、本機が正しく設定されているかを確認する。 • 入力信号のグラフィックモードと周波数が、本機で使用できる範囲かを確認する（45 ページ）。ただし本機で使用できる範囲でも、グラフィックボードによっては同期パルス幅が合わないため、きれいに画像を映せないことがあります。 • コンピュータのリフレッシュレート（垂直周波数）を、最適な画面になるように設定する。
画像がくっきりしていない。	• コントラストや明るさを調整する（31 ページ）。 • ピッチとフェーズを調整する（アナログ RGB 信号のみ）（31 ページ）。
画像が二重、三重になる。	• ビデオ信号ケーブルの延長コードやインプットセレクタの使用をやめる。 • 接続ケーブルを端子にしっかりと差し込む。
画像の位置がずれている、または画像の大きさが正しくない。	• ピッチとフェーズを調整する（アナログ RGB 信号のみ）（31 ページ）。 • 画像の位置を調整する（31 ページ）。入力信号やグラフィックボードによっては、画像が画面全体に広がらないことがあります。
画像が小さい。	•「ワイド切換」の設定を「ズーム」または「フル」にする（32 ページ）。 **■ コンピュータなど本機につないでいる機器が原因の場合** • コンピュータの解像度を画面の解像度と同じにする（水平：1920 ドット、垂直：1200 ライン）。
画像が暗い。	• 明るさを調整する（31 ページ）。 • バックライトを調整する（31 ページ）。 • 電源を入れた後、画面が明るくなるまでしばらく時間がかかります。
画面に波模様や縦縞が出る。	• ピッチとフェーズを調整する（アナログ RGB 信号のみ）（31 ページ）。
色むらがある。	• ピッチとフェーズを調整する（アナログ RGB 信号のみ）（31 ページ）。
その他	
本機のボタンが働かない。	• メニューロック機能が「オン」になっている。「オフ」にする（33 ページ）。
しばらくすると、ディスプレイの電源が切れてしまう。	• コンピュータがサスペンドになっている。キーボードのいずれかのキーを押すか、マウスを動かす。
USB ケーブルでつないだ機器が動作しない。	• DVI 複合ケーブルの USB ケーブル（付属）（15 ページ）と USB ケーブル（21 ページ）を正しくつないでいるか確認する。 • ⏻（電源）ボタンを押して、本機の電源を入れる。 **■ コンピュータなど本機につないでいる機器が原因の場合** • つないでいる機器の電源が入っているか確認する。 • 最新の USB ドライバをコンピュータにインストールし直す。くわしくは、つないだ機器のメーカーにお問い合わせください。 • キーボードやマウスでコンピュータを操作できないときは、キーボードやマウスをコンピュータに直接つなぎ、コンピュータを再起動してから USB 接続の設定をする。その後、本機につなぎ直す。本機の USB 端子を経由してコンピュータ、キーボード、マウスをつなぐと、最初にコンピュータを起動したときに、コンピュータをマウスやキーボードから操作できないことがあります。

テレビ／ビデオなど

こんなときは	原因と対処のしかた
画像が出ない	
すべてのチャンネルが映らない。	• 電源コードをしっかりつないでください。 • 本機の電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。
特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください（19 ページ）。
つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換用ボタンを押してください（27 ページ）。
きれいに映らない	
画像が二重、三重になる。	• アンテナ線をしっかりつないでください。 • アンテナの位置、方向、角度を調整してください。
雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	• アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 • アンテナの寿命を確認してください（通常 3 ～ 5 年、海辺では 1 ～ 2 年）。
斑点や点模様が走る。	• ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	• メニューの「画質調整」で画質を調整してください（31 ページ）。
縞状のノイズが多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
音が出ない／雑音が多い	
画像は出るが、音が出ない。	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ / －ボタンを押して表示を消してください。 • ヘッドホンを抜いてください。
雑音が多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 • 雑音の多いチャンネルを映した状態でメニューの「テレビ設定」で「オートステレオ」を「切」にしてください（33 ページ）。

次のページへつづく

リモコン

こんなときは	原因と対処のしかた
リモコンで操作できない。	• 電池を交換してください（14 ページ）。 • 電池の ⊕⊖ を正しい向きに入れてください（14 ページ）。 • リモコンをリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 • リモコン受光部の近くに蛍光灯などの強い照明が当たっているときは、離して置いてください。
リモコンのチャンネル数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**■ ダイレクト選局の場合（18 ページ）** • メニューの「テレビ設定」の「選局」で「ダイレクト」が選ばれているかを確認してください（33 ページ）。 **■ 10 キー選局の場合（24 ページ）** • メニューの「テレビ設定」の「選局」で「10 キー」が選ばれているかを確認してください（33 ページ）。 • 11 チャンネルは ① を 2 回、12 チャンネルは ① と ② を続けて押してから、⑫（選局）を押してください。 • チャンネル数字ボタンに続けて ⑫（選局）を押してください。

お問い合わせ先について

「よくあるトラブルと解決方法」（37 ページ）の項目をチェックしても具合が悪いときは、以下のお問い合わせ先にご相談ください。

VAIO カスタマーリンク

電話番号
（0466）30-3000

受付時間
平日　10 時～ 20 時
土、日、祝日 10 時～ 17 時
（365 日年中無休）

お電話は午前 11 時以降、または午後の方がつながりやすくなっております。VAIO カスタマーリンクホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）の「お問い合わせ」の中の「電話による技術的なお問い合わせ」を選択して、本文中央に表示される「VAIO カスタマーリンク電話受付混雑状況表」もあわせてご確認ください。

お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応します。

お問い合わせの前に以下の内容をご用意ください。

① お客様の VAIO カスタマー ID（ご登録いただいている場合）
② 本機の型名：VGP-D23HD1
③ 本機の製造番号：7 桁の番号

ちょっと一言

型名、製造番号は、機銘板ラベル（12 ページ）に記載されています。

④ カスタマー登録していただいたときの電話番号（ご登録いただいている場合）

ちょっと一言

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤ 本機を接続しているコンピュータ名（型名）
⑥ 表示されたエラーメッセージ
⑦ コンピュータに付属していないソフトウェアを追加した場合は、そのソフトウェアの名前とバージョン
⑧ トラブルが発生する前または直前に行った操作
⑨ トラブルがどのくらいの頻度で再現するか
⑩ その他お気づきの点
⑪ 筆記用具（修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です）

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう 1 度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは VAIO カスタマーリンクへご連絡ください

VAIO カスタマーリンクについては、「お問合せ先について」をご覧ください。または、コンピュータ本体に添付の取扱説明書、または「困ったときは」の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保障期間内であっても、有償修理とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

本機は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくはコンピュータ本体に添付の取扱説明書、または「困ったときは」の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

部品の保有期間について

当社ではコンピュータディスプレイの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIO カスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：VGP-D23HD1
- 製造番号：7 桁の番号
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

型名、製造番号は機銘板ラベル（12 ページ）に記載されています。

修理用補修部品について

ソニーでは、長期にわたる修理部品のご提供、ならびに環境保護などのため、修理サービスご提供の際に、再生部品を使用することがあります。
また原則として交換した部品は、上記の理由によりソニーの所有物として回収させていただいておりますので、あらかじめご了承ください。

使用済みディスプレイの回収について

PC
リサイクル

このマークが表示されているソニー製品は、新たな料金負担無しでソニーが回収し、再資源化いたします。
詳細はソニーのホームページ
http://www.sony.co.jp/pcrecycle/
をご参照ください。

個人・ご家庭のお客様へ
個人・ご家庭でご使用になりましたバイオを廃棄する場合は、下記の「使用済家庭用パーソナルコンピュータ回収委託規約」をご覧ください。

事業者のお客様へ
事業で（あるいは、事業者が）ご使用になりましたバイオを廃棄する場合は、
http://www.sony.co.jp/pcrecycle/
より、事業者向けのページをご覧ください。

使用済家庭用パーソナルコンピュータ回収委託規約
　ソニー株式会社（以下、「当社」と言います。）は、お客様がご家庭で使用済みとなったパーソナルコンピュータを再資源化するために回収させていただくサービスを、本使用済家庭用パーソナルコンピュータ回収委託規約（以下、「本規約」と言います。）に基づいて実施いたしております。
　本規約にご同意いただける場合には、所定の手続きに従ってお申込みの上、ご家庭で使用済みとなったパーソナルコンピュータを当社にお引渡しください。

第 1 条（目的）
1 本規約は、「資源の有効な利用の促進に関する法律（以下、「資源有効利用促進法」と言います。）に基づき、個人のお客様がご家庭から排出されるパーソナルコンピュータに関し、資源の有効な利用の確保を図ることを目的として規定されたものです。
2 お客様は、本規約に従って、当社に対して排出パソコンの回収再資源化を委託し、当社はこれを受託するものといたします（以下、「回収委託業務」と言います。）。なお、当社は、本規約に基づく回収委託業務の全部または一部を当社の選任した第三者（以下、「協力会社」と言います。）に行わせることがあります。

第 2 条（定義）
1 本規約にいう「排出パソコン」とは、当社が製造・販売したパーソナルコンピュータのシステム装置本体部分、ディスプレイ装置、及びこれらの販売にあたって同梱されていた付属品（当社が本体を出荷する際に一緒に梱包したマウス・キーボード等のいわゆるハードウェア）であって、個人のお客様がご家庭で使用され、ご家庭から排出したものを意味します。
2 本規約にいう「回収」とは、当社が、本規約第 7 条によりお客様から排出パソコンの引渡しを受けることを意味します。

第 3 条（回収の対象）
1 排出パソコンは全て回収の対象となります。ご家庭で使用され、ご家庭から排出したものであれば、ディスプレイ装置単体も排出パソコンとして回収の対象となります。なお、第 2 条第 1 項で定める通り、当社が回収する排出パソコンは当社が製造・販売したものに限り、他社製品は回収の対象とはなりません。
2 以下の各号に定める物は回収の対象となりません。ご注意ください。
（1）フロッピーディスク、CD-ROM、DVD-ROM 等の記憶媒体
（2）販売にあたって同梱されていない周辺装置等
（3）ワードプロセッサ、携帯情報端末（PDA）、ゲーム機器及びプリンター
（4）説明書、案内書、カタログ、はがき等の添付品

第 4 条（排出パソコン回収の申込み方法）
1 排出パソコンの回収委託業務の委託に際しては、必ず事前に当社に申込みを行ってください。事前の申込みがない場合には、排出パソコンのお引取りはできません。お申込み無しに排出パソコンを当社宛に送付されても、お客様の費用負担により返還させていただくことになります。
2 排出パソコンの回収は、以下に定めるいずれかの方法によってお申込みが可能です。
（1）オンライン申込み
ホームページ http://www.sony.co.jp/pcrecycle/ より所定のフォームを利用して排出パソコン回収の申込みを行ってください。
（2）電話による申込み
当社のソニーパソコンリサイクル受付センター（連絡先電話 0570-000-369）に、排出パソコン回収の申込みを行ってください。携帯電話または PHS 等移動体電話からお申込みの場合は別の番号となります。（当社のホームページ http://www.sony.co.jp/pcrecycle/ をご覧ください。）
（3）FAX による申込み
ホームページ http://www.sony.co.jp/pcrecycle/ から当社所定の申込書をダウンロードし、お客様のプリンターで印刷し、必要事項をご記入の上当社のソニーパソコンリサイクル受付センター（連絡先 FAX 0570-000-368）に、FAX で排出パソコン回収の申込みを行ってください。
3 前項の申込みについては、お客様の申込みの意思表示が当社に到達したときになされたものといたします。申込みを行ったにも拘らず、当社又は当社の委託を受けた回収業者から、なんら連絡が無い場合には、当社のソニーパソコンリサイクル受付センターにご確認ください。
4 未成年のお客様は、必ず保護者の同意を得てからお申し込みください。

第 5 条（回収再資源化料金）
1 排出パソコンに、PC リサイクルマークが付いている場合、新たな料金負担無しで、当社が当該排出パソコンを回収再資源化いたします。
2 排出パソコンに、PC リサイクルマークが付いていない場合、回収前に、当社所定の回収再資源化料金をお支払いいただきます。回収再資源化料金には、本規約に基づく回収に要する費用、排出パソコンの再資源化に要する費用及び消費税が含まれています。
回収再資源化料金の支払方法は以下の通りです。
（1）郵便振替
（2）コンビニエンスストア振込
（3）クレジットカード決済（オンライン申込みの場合のみ）（1）または（2）の場合は、振込用紙をお送りいたします。振替または振込に要する手数料等は当社で負担いたします。
3 当社は、お客様による回収再資源化料金の支払方法で郵便振替およびコンビニエンスストア振込の場合はお支払いの後に、クレジットカード決済の場合は第 4 条第 2 項第（1）号に定めるオンライン申込みの受付完了の後に回収を行うものといたします。
当社は、回収再資源化料金の郵便振替およびコンビニエンスストア振込のお支払完了、並びにクレジットカード決済によるオンライン申込みの受付完了が確認できない場合には回収を行えません。
4 本条第 2 項第（1）号及び第（2）号の方法による回収再資源化料金を選択された場合、合理的理由が無いにも拘らず、オンライン申込みの場合申込みの日の翌日から 30 日以内、電話による申込み及び FAX による申込みの場合申込み日の翌営業日から 30 日以内に回収再資源化料金の支払いが確認できなかった場合には、申込みは撤回されたものといたします。
（この場合、お客様が回収を希望するのであれば、再度申込みを行ってください。）

5 本規約第 12 条に基づく解除がなされた場合を除き、回収再資源化料金の返還はできませんので、ご了承ください。
6 お客様の故意・過失により、過分の費用を要した場合には、本条第 1 項及び第 2 項の規定に拘らず、超過分の費用をお支払いいただきます。
7 以下の各号いづれかが満たされることをもって申込みにかかる排出パソコンに関する回収委託業務のお客様から当社への委託にかかる契約（以下「回収委託契約」と言います。）が成立するものとします。
（1）排出パソコンに PC リサイクルマークが付いている場合、前条第 3 項に定めるお客様の申込みの意思表示が当社に到達したとき。
（2）排出パソコンに PC リサイクルマークが付いていない場合、お客様による回収再資源化料金の郵便振替およびコンビニエンスストア振込のお支払い、またはクレジットカード決済によるオンライン申込みの受付が完了したとき。

第 6 条（回収方法）
1 回収の申込み及び PC リサイクルマークの付いていない排出パソコンについて所定の回収再資源化料金のお支払いがなされると、「エコゆうパック伝票」をお送りいたします。回収の際には排出パソコンを必ず梱包し、梱包上に「エコゆうパック伝票」を貼付してください。
2 排出パソコンの回収方法については、下記の二つの方法を選択することができます。
（1）持込回収：全国の郵便局（簡易郵便局を除く。）に排出パソコンを持込んでいただく方法。
（販売店等、郵便局以外の場所にご持参いただいてもお引取りすることはできません。以下、「持込回収」と言います。）
（2）戸口回収：郵便局の集荷員がお客様の戸口まで伺った上で、排出パソコンの引渡しを受ける方法。
（戸口回収を希望される場合には、お送りする「エコゆうパック伝票」に記載されている集配郵便局に直接電話でお申込みいただき、回収日時をご相談ください。以下「戸口回収」と言います。）

第 7 条（排出パソコンの引渡し）
1 排出パソコンは、郵便局でお客様の排出パソコンを受領した時（持込回収の場合）、または郵便局の集荷員がお客様の排出パソコンを受領した時（戸口回収の場合）に、当社に対して引き渡されたものといたします。
2 お客様が「エコゆうパック伝票」以外のゆうパック伝票を用いて、当社宛に排出パソコンを送付されまたは郵便局に持ち込まれても、引渡しを受けることはできません。また、郵便局以外の宅配会社を通じて、お客様から直接、当社または郵便局宛に排出パソコンを送付されても、引渡しを受けることはできません。

第 8 条（回収後の排出パソコンのデータの取扱い等）
1 前条の引渡しが行われた場合、お客様は、排出パソコン自体及び同パソコンのハードディスクやメモリ等に記録されたデータに対する一切の権利（所有権を含むがこれに限らない）を放棄したものといたします。
2 当社は、排出パソコンの引渡し後は、お客様や第三者に対する排出パソコンの返還や、ハードディスク・メモリ等に記録されたプログラム・データ等の復元・返還等については応じられません。
また、これによりお客様または第三者に何らかの損害が発生しても当社は一切の責任を負いません。
3 排出パソコンの引渡しに際し、当該パソコンに、本規約第３条で規定する排出パソコン以外の媒体・部品・ユニット・付加物・変更物等が残存している場合、お客様はこれらのものに対する一切の権利を放棄したものとさせていただき、当社において自由に処分等をなしうるものといたします。なお、当該媒体・部品・ユニット・付加物・変更物等については、前項の規定を準用するものといたします。
4 お客様は、排出パソコンの引渡しまでに、お客様の責任において、プログラム・データ等を全て消去してください。
お客様が排出パソコンに含まれるプログラム・データ等の消去・削除等を行わないまま、当社に引渡しを行なった場合には、当社は、それらの破壊・漏洩等について、一切の責任を負いません。

第 9 条（お客様の個人情報の取扱い）
1 排出パソコンの回収に伴い、当社に登録されたお客様の氏名、住所等の個人情報（以下、「お客様の個人情報」と言います。）は、排出パソコンの回収に必要な範囲でのみ利用させていただき、当社においてそれ以外の目的に利用することはありません。
2 当社は、第三者が、お客様の個人情報に不当に触れることがないよう、合理的な範囲内で、厳重に保管いたします。なお、当社は利用目的の達成により継続保管の必要が無くなったと判断した場合に、お客様の個人情報を消去する場合があります。
3 当社は、下記の場合を除き、お客様のご了承なくお客様の個人情報を第三者に開示いたしません。（個人を特定できない統計資料は除きます。）
（1）利用目的のために、当社が業務を委託する協力会社に対してお客様の個人情報の開示が必要な場合。（なお、当社は、当該協力会社に対して、お客様の個人情報の厳重な管理と使用目的の遵守を徹底いたします。）
（2）司法機関または行政機関から法的義務を伴う要請を受けた場合。
4 お客様が、お客様の個人情報を照会する場合は、第 4 条に記載するソニーパソコンリサイクル受付センターにご連絡ください。
5 お客様が、お客様の個人情報のすべてまたは一部の利用の中止を希望される場合には、第 4 条に記載するソニーパソコンリサイクル受付センターにご連絡ください。可能な限り、対処させていただきます。

第 10 条（回収後の排出パソコンの取扱い）
引渡し後の排出パソコンにつきましては、資源有効利用促進法等の法律に従って、当社の定める方法により再資源化・再利用等いたしますが、再資源化・再利用等の手段・方法について、お客様に対して責任を負うものではありません。

第 11 条（お引取りできない場合）
以下の場合には、お客様から回収申込みがあっても、当社として回収委託業務を受託できず、排出パソコンのお引取りをお断りさせていただく場合があります。
（1）回収申込みのあったパーソナルコンピュータが、当社の製造・販売した製品ではなかった場合。
（2）本規約第 3 条第 2 項により、回収の対象とならないものであった場合。
（3）排出パソコンに改造が加えられ、または正当な理由無く部品やユニットが抜き取られ、当社が製造販売したシステム装置等と同一性が認められないと当社が判断した場合。（なお、回収にあたっては、お客様が排出パソコンに独自に付加・変更された媒体・部品・ユニット・付加物・変更物等について、取外し等をお願いする場合もあります。）
（4）回収申込みのあったパーソナルコンピュータが、個人が家庭用に使用したものではなかったことが判明した場合。
（5）お客様が排出パソコンの正当な所有権者・処分権者であることに疑いがあると当社が判断した場合。
（6）回収申込みをされたお客様が回収再資源化料金の支払いを行えないことが明らかな場合。
（7）排出パソコンが破損していて輸送時の安全が確保できない場合。
（8）その他、前各項に定める事由に類する事由がある場合。

第 12 条（解除）
1 お客様は、本規約第 7 条規定の引渡し前であれば、いつでも本規約に基づく回収委託契約の申込みを撤回し、または回収委託契約を解除することができます。解除を希望されるお客様は当社のソニーパソコンリサイクル受付センターに通知していただき、当社所定の手続きに従い解除の意思表示をしてください。
2 当社は、以下の事由に該当するときには、排出パソコンの引渡しの前後を問わず、本規約に基づく回収委託契約を解除することができます。
（1）排出パソコンが、以下に定めるいずれかに該当するとき。
① 回収申込みのあったパーソナルコンピュータが当社の製造・販売した製品ではない場合。
② 本規約第 3 条第 2 項により、回収の対象とならないものであった場合。
③ 排出パソコンが改造され、または、正当な理由無く部品やユニットが抜き取られており、当社が製造販売したパソコンと同一性が認められないと当社が判断した場合。
④ お客様が回収を申し込まれた排出パソコンの品名・型名・数量と引渡しにかかる排出パソコンの品名・型名・数量とが異なる場合。
⑤ 回収申込みのあったパーソナルコンピュータが、個人が家庭用に使用したものではなかったことが判明した場合。
⑥ 排出パソコンの回収申込者が、当該パソコンの正当な所有者・処分権者ではないと当社が判断した場合。
（2）お客様が第 5 条第 2 項に基づき回収再資源化料金支払義務を負うにも拘らず、その支払いがなされず、または支払われた回収再資源化料金が所定の金額に満たないとき。
（3）当社がお客様の指定した住所に発行した「エコゆうパック伝票」を送付した後、合理的な理由が無いにも拘らず、当社による「エコゆうパック伝票」発行後 60 日間が経過したにも拘らず排出パソコンの引渡しがなされなかった場合。
（4）その他前各項に定める事由に類する事由がある場合。
3 本条に基づく回収委託契約の解除により、当社に損害が生じたときは、当社はお客様に対し損害賠償の請求等を行うことができるものといたします。

第 13 条（解除後の処理）
1 前条第 1 項に基づきお客様から解除の意思表示のあった場合、それまでに発生した費用をご負担いただくことがあります。
2 前条第 1 項または第 2 項に基づいて本規約に基づく回収委託契約の解除がなされた場合の処理については以下のようになります。
（1）お客様が第 5 条第 2 項に基づき既に回収再資源化料金を支払い済みでありかつ、当社がまだ排出パソコンの引渡しを受けていない場合
当社は、お客様に対し、回収再資源化料金を返還いたします。この場合、返還までに要した費用・損害等は、お客様にご負担いただきます。
（2）当社が既に排出パソコンの引渡しを受けている場合
お客様が回収委託契約を解除したとき、当社は、受領済みの排出パソコンを返還いたしませんが、当社が回収委託契約を解除したとき、当社は、お客様に対し、受領済みの排出パソコンを返還することができるものといたします。この場合、排出パソコンを返還するまでに要した費用はお客様にご負担いただきます。なお、返還するパソコンの動作や概観等について、当社は一切の責任を負いません。
但し、既に再資源化処理がなされてしまった場合等、排出パソコンの返還が不可能となっている場合には返還いたしません。
3 解除により、お客様または第三者に損害が生じた場合であっても、当社はお客様または第三者に対し一切の責任を負いません。

第 14 条（責任の範囲）
1 回収委託業務により、お客様に対して当社の責に基づく損害が発生し、当社が損害賠償責任等を負う場合、賠償責任の範囲は、排出パソコンの回収再資源化料金相当額を限度とする金銭賠償に限られるものといたします。
2 本規約は、強行法規に基づくお客様の権利を制限するものではありません。
3 本規約に基づくお客様の権利義務は、第三者に譲渡することはできないものといたします。

第 15 条（定めのない事項等）
本規約に定めのない事項または本規約の解釈に疑義が生じた場合には、お客様と当社において誠実に協議を行うことといたします。

第 16 条（管轄裁判所）
前条の協議によってもなお本規約に関わる紛争が解決できない場合には、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所といたします。

第 17 条（適用法令）
本規約は日本国内でのみ有効とし、本規約に定めのない事項については、民法その他関係諸法令を適用するものといたします。

第 18 条（規約の改定）
本規約は当社によって改定される場合があります。本規約は末尾に示す制定日または改定日時点のものであり、お客様が第 4 条に従い排出パソコン回収の申込みをされる時点では改定されている可能性があります。この場合、お客様が第 4 条に従い排出パソコン回収の申込みをした時点の本規約が、当該排出パソコン回収に関して適用されるものといたします。最新版の本規約は当社のホームページ
http://www.sony.co.jp/pcrecycle/ にてご確認ください。

以上

（2003 年 10 月 1 日制定）
（2003 年 12 月 1 日改定）
（2004 年 4 月 1 日改定）

主な仕様

LCD パネル　a-Si TFT アクティブマトリックス
画面サイズ：23 インチ（58.4cm）
解像度　水平：最大 1920 ドット
垂直：最大 1200 ライン
音声出力　実用最大：10W ＋ 10W（JEITA）
ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス 16Ω 以上
アンテナ端子　VHF/UHF
75ΩF 型コネクタ
受信方式：NTSC 方式
VHF 1 ～ 12 チャンネル
UHF 13 ～ 62 チャンネル
CATV C13 ～ C63
（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
PC1 入力端子（デジタル RGB）
映像：DVI-D 入力端子（HDCP 対応）
・ 動作周波数
水平：30 ～ 75kHz
垂直：55 ～ 65Hz
・ 信号レベル
TMDS 方式（Single link）
音声：ステレオミニジャック
入力レベル：2.0Vrms（最大）
入力インピーダンス 47kΩ
PC2 入力端子（アナログ RGB）
映像：HD15 入力端子
・ 動作周波数
水平：30 ～ 75kHz
垂直：55 ～ 65Hz
・ 信号レベル
RGB 信号：0.7Vp-p、75Ω、正極性
同期信号：TTL レベル、2kΩ、極性自由
（水平 / 垂直分離または複合同期信号）
音声：ステレオミニジャック
入力レベル：2.0Vrms（最大）
入力インピーダンス 47kΩ
ビデオ 1 入力端子（コンポーネント）
D4 映像：D4 映像入力端子
Y：1Vp-p（0.3V 負同期付き）
C_B/C_R：± 0.7Vp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声：ピンジャック× 2（L/R）
入力レベル：2.0Vrms（最大）
入力インピーダンス 47kΩ
ビデオ 2 入力端子（コンポジット）
S 映像：4 ピンミニ DIN ジャック
Y：1Vp-p、不平衡、同期負
C：0.286Vp-p（バースト信号）
入力インピーダンス 75Ω
映像：ピンジャック
1Vp-p、不平衡、同期負
入力インピーダンス 75Ω
音声：ピンジャック× 2（L/R）
入力レベル：2.0Vrms（最大）
入力インピーダンス 47kΩ

電源電圧　使用電源：AC100V、50/60Hz
定格消費電流　2A
消費電力量（スピーカー不使用、USB 機器非接続時）
通常時：190W 以下
待機時：3W 以下
動作温度　5 ～ 35°C
最大外形寸法（幅 / 高さ / 奥行き）
ディスプレイ（正立状態）：
約 673 × 539 × 228 mm
質量　ディスプレイ：約 23.6kg
プラグ & プレイ機能
DDC2B
同梱品　11 ページをご覧ください。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。